

Oracle® Server X6-2 Linux オペレーティングシステムインストールガイド

ORACLE®

Part No: E73664-01
2016 年 4 月

Part No: E73664-01

Copyright © 2016, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクル およびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>)か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。

目次

このドキュメントの使用方法	7
製品ドキュメントライブラリ	7
フィードバック	7
Linux オペレーティングシステムのインストールについて	9
Oracle Linux 6.7 および 7.2 OS のインストールのタスクマップ	9
サポートされている Linux オペレーティングシステム	10
Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux	11
Linux OS のインストールオプション	11
単一サーバーへのインストール方法	12
Linux OS の手動インストール	12
Linux オペレーティングシステムのインストールの準備	15
コンソール表示オプションの選択	15
コンソール表示オプション	16
▼ ローカルコンソールを設定する	16
▼ リモートコンソールを設定する	17
ブート環境の準備	18
▼ UEFI の最適なデフォルト値を確認する	19
▼ ブートモードを設定する	21
ブートメディアオプションの選択	24
ブートメディアオプションの要件	24
▼ ローカルインストール用のブートメディアを設定する	25
▼ リモートインストール用のブートメディアを設定する	26
インストール先の選択	28
インストール先オプション	29
▼ ローカルストレージドライブ (HDD、SSD、または RAID ボリューム) をインストール先として設定する	29
▼ ファイバチャネル Storage Area Network デバイスをインストール先として設定する	30

RAID の構成	30
Linux オペレーティングシステムのインストール	31
開始する前に	31
単一システムへの Oracle Linux の手動インストール	32
▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して Oracle Linux 6.7 OS をインストールする	32
▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して Oracle Linux 7.2 OS をインストールする	54
▼ PXE ネットワークブートを使用した Oracle Linux 6.7 および 7.2 OS のインストール	59
Oracle Linux 6.7 または 7.2 OS のインストール後のタスク	63
Red Hat Enterprise Linux OS の単一システムへの手動インストール	64
RHEL 6.7 および 7.2 OS のインストールのタスクマップ	64
開始する前に	65
▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して RHEL 6.7 および 7.2 OS をインストールする	66
▼ PXE ネットワークブートを使用して RHEL 6.7 または 7.2 OS をインストールする	70
RHEL 6.7 または 7.2 OS のインストール後のタスク	73
ネットワークインタフェースの構成	75
NIC コネクタ	75
索引	77

このドキュメントの使用方法

- **概要** – このインストールガイドでは、Linux オペレーティングシステムのインストール手順と、Oracle Server X6-2L を構成可能かつ使用可能な状態にするためのソフトウェアの初期構成に関する手順について説明します。
- **対象読者** – 技術者、システム管理者、認定サービスプロバイダ、およびシステムユーザー。
- **必要な知識** – オペレーティングシステムのインストール経験。

製品ドキュメントライブラリ

この製品および関連製品のドキュメントとリソースは <http://www.oracle.com/goto/x6-2/docs> で入手可能です。

フィードバック

このドキュメントに関するフィードバックを <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお寄せください。

Linux オペレーティングシステムのインストールについて

このセクションでは、サーバーに Linux オペレーティングシステム (OS) をインストールする手順の概要を説明します。

説明	リンク
インストールのタスクマップを確認します。	9 ページの「Oracle Linux 6.7 および 7.2 OS のインストールのタスクマップ」
サポートされる Linux オペレーティングシステムを確認します。	10 ページの「サポートされている Linux オペレーティングシステム」
Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux およびこれが使用できる場合について確認します。	11 ページの「Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux」
OS のインストールオプションを確認します。	11 ページの「Linux OS のインストールオプション」

関連情報

- [31 ページの「Linux オペレーティングシステムのインストール」](#)

Oracle Linux 6.7 および 7.2 OS のインストールのタスクマップ

次の表は、新規インストールで Oracle Linux OS をインストールするための概略手順の一覧と説明です。

手順	説明	リンク
1.	サーバーハードウェアを設置し、Oracle ILOM サービスプロセッサを構成します。	<ul style="list-style-type: none">■ 『Oracle Server X6-2 設置ガイド』の「サーバーのラックへの設置」■ 『Oracle Server X6-2 設置ガイド』の「サーバーのケーブル接続と電源の投入」■ 『Oracle Server X6-2 設置ガイド』の「Oracle ILOM への接続」

手順	説明	リンク
2.	サーバー上でサポートされる Oracle Linux バージョンを確認します。	10 ページの「サポートされている Linux オペレーティングシステム」
3.	Oracle Linux インストールメディアを入手します。	インストールメディアは、次の場所でダウンロードまたは注文できます。 http://linux.oracle.com/pls/apex/f?p=117:1:3991604960223967
4.	プロダクトノートを確認します。	『Oracle Server X6-2 プロダクトノート』(http://www.oracle.com/goto/X6-2/docs)
5.	インストールの実行時に使用する予定のコンソール、Oracle Linux メディア、インストール先を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 15 ページの「コンソール表示オプションの選択」 ■ 24 ページの「ブートメディアオプションの選択」 ■ 28 ページの「インストール先の選択」
6.	OS の新規インストール用に BIOS 設定を指定します。	18 ページの「ブート環境の準備」
7.	Oracle Linux OS をインストールします。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 32 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して Oracle Linux 6.7 OS をインストールする」 ■ 54 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して Oracle Linux 7.2 OS をインストールする」 ■ 59 ページの「PXE ネットワークブートを使用した Oracle Linux 6.7 および 7.2 OS のインストール」
8.	インストール後のタスクを実行します。	63 ページの「Oracle Linux 6.7 または 7.2 OS のインストール後のタスク」

関連情報

- [15 ページの「Linux オペレーティングシステムのインストールの準備」](#)

サポートされている Linux オペレーティングシステム

サーバー は次の Linux オペレーティングシステム (OS) をサポートしています。

Linux OS のバージョン	エディション
Oracle	Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux Release 4 を備えた Oracle Linux 6.7 および 7.2 OS for x86 (64 ビット) 注記 - オプションで、Red Hat 互換カーネルを Oracle Linux 6.7 および 7.2 OS for x86 (64 ビット) で使用できます。
Red Hat	Red Hat Enterprise Linux 6.7 および 7.2 OS for x86 (64 ビット) 注記 - オプションで、Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux Release 4 を Red Hat Enterprise Linux 6.7 および 7.2 OS for x86 (64 ビット) にインストールできます。

さらに、サポートされているその他のオペレーティングシステムや仮想マシンソフトウェアをサーバーにインストールすることもできます。サポートされているオペ

レーティングシステムおよび仮想マシンソフトウェアの最新のリストについては、最新バージョンの『Oracle Server X6-2 プロダクトノート』(<http://www.oracle.com/goto/x6-2/docs>) を参照してください。

Linux のハードウェアの互換性リスト (HCL) には、Oracle ハードウェアでサポートされている最新のオペレーティングシステムのバージョンが示されています。Oracle Server X6-2L でサポートされている Linux の最新バージョンを見つけるには、次のサイトにアクセスし、サーバーのモデル番号を使用して検索してください。

- Oracle Linux – <http://linux.oracle.com/pls/apex/f?p=117:1:3991604960223967>
- Red Hat Enterprise Linux – <https://access.redhat.com/certifications>

関連情報

- [31 ページの「Linux オペレーティングシステムのインストール」](#)

Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux

このリリースのサーバーソフトウェアでは、Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux の Release 4 がサポートされています。Release 4 は、デフォルトでは Oracle Linux 6.7 および 7.2 OS にインストールされており、Red Hat Enterprise Linux 6.7 および 7.2 OS にインストールできます。Release 4 には、Release 3 のカーネル以降にメインライン Linux に組み込まれた改良点と新機能が含まれています。

関連情報

- Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 4 for Linux: オペレーティングシステムの互換性およびインストール情報の参照先に関する最新情報については、次の『Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 4 のリリースノート』を参照してください。
https://docs.oracle.com/cd/E52668_01/E69348/html/index.html#
- [31 ページの「Linux オペレーティングシステムのインストール」](#)

Linux OS のインストールオプション

OS を単一のサーバーにインストールするか、複数のサーバーにインストールするかを選択できます。このドキュメントは、単一のサーバーでの OS のインストールを対

象としています。次の表に、これら 2 つのインストールオプションに関する情報を示します。

オプション	説明
複数のサーバー	Oracle Enterprise Manager Ops Center を使用して、複数のサーバー上に OS をインストールできます。詳細は、 http://www.oracle.com/technetwork/oem/ops-center/index.html にアクセスしてください。
単一のサーバー	次のいずれかの方法を使用して、単一のサーバーに OS をインストールします。 <ul style="list-style-type: none"> ローカル: サーバー上でローカルに OS のインストールを実行します。このオプションは、物理的にラックにサーバーを設置し終えたばかりのときにお勧めします。 リモート: リモートの場所から OS のインストールを実行します。このオプションは、Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを使用して、OS の手動インストールを実行します。

単一サーバーへのインストール方法

Linux OS インストールメディアを用意する方法を選択します。次の情報を使用して、ローカルかリモートのどちらの Linux OS のインストールがニーズにもっとも適しているかを判断します。

メディアの提供方法	その他の要件
DVD ドライブを使用したローカル OS インストール – サーバーに接続された物理 DVD ドライブを使用します。	モニター、USB キーボードおよびマウス、USB DVD ドライブ、および OS 配布メディア。詳細は、 12 ページの「Linux OS の手動インストール」 を参照してください。
DVD ドライブまたは DVD の ISO イメージを使用したリモート OS インストール – Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを実行しているリモートシステム上でダイレクトされた物理 DVD ドライブまたは DVD ISO イメージを使用します。	ブラウザを備えたリモートシステム、接続された物理 DVD ドライブまたは ISO イメージファイル、OS 配布メディア、およびサーバーの管理ポートへのネットワークアクセス。詳細は、 12 ページの「Linux OS の手動インストール」 を参照してください。

Linux OS の手動インストール

Linux OS を手動でインストールするには、Linux OS の配布メディアをローカルまたはリモートの DVD ドライブ、USB デバイス、または DVD イメージに提供します。必要なドライバをインストールする必要もあります。サーバー用のドライバは、My Oracle Support の Web サイトから OS 固有またはサーバー固有のどちらかのパッケージとして、あるいは ISO イメージファイルとして入手できます。OS をインストールするには、配布メディアのインストールウィザードを使用します。

My Oracle Support の Web サイトにアクセスするには、<https://support.oracle.com> に移動します。

Linux オペレーティングシステムのインストールの準備

このセクションでは、オペレーティングシステムをインストールできるようにサーバーを準備する方法について説明します。

説明	リンク
コンソール表示オプションとそれらの設定方法を確認します。	15 ページの「コンソール表示オプションの選択」
サーバーの UEFI の最適なデフォルト値の確認と設定。	18 ページの「ブート環境の準備」
ブートモードの構成。	21 ページの「ブートモードを設定する」
ブートメディアオプションとそれらの設定方法を確認します。	24 ページの「ブートメディアオプションの選択」
インストール先オプションとそれらの設定方法を確認します。	28 ページの「インストール先の選択」
サーバーでの RAID の構成。	30 ページの「RAID の構成」

関連情報

- [32 ページの「単一システムへの Oracle Linux の手動インストール」](#)
- [64 ページの「Red Hat Enterprise Linux OS の単一システムへの手動インストール」](#)

コンソール表示オプションの選択

このセクションでは、インストールを実行するためにコンソールを接続するオプションについて説明します。

- [16 ページの「コンソール表示オプション」](#)
- [16 ページの「ローカルコンソールを設定する」](#)
- [17 ページの「リモートコンソールを設定する」](#)

コンソール表示オプション

ローカルコンソールをサーバーのサービスプロセッサ (SP) に直接接続することにより、OS のインストールやサーバーの管理を実行できます。サーバーは 2 種類のローカルコンソールをサポートしています。

- シリアル管理ポート (SER MGT) に接続された端末
この端末は、ポートに直接接続することも、ポートに直接接続された端末エミュレータに接続することもできます。
- ビデオポート (VGA) に直接接続された VGA モニターと、外部 USB コネクタに接続された USB キーボードおよびマウス

サーバー SP へのネットワーク接続を確立することにより、リモートコンソールから OS のインストールやサーバーの管理を行うこともできます。2 種類のリモートコンソールがあります。

- Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを使用した Web ベースのクライアント接続
- ネットワーク管理ポート (NET MGT) への Secure Shell (SSH) クライアント接続

▼ ローカルコンソールを設定する

1. ローカルコンソールに接続するには、次のいずれかを実行します。
 - 端末をシリアル管理ポート (SER MGT) に直接接続するか、または端末エミュレータ経由で接続します。端末デバイスを、9600 ボー、8 ビット、パリティなし、1 ストップビット (9600/8-N-1) に設定します。
 - VGA モニター、キーボード、およびマウスをビデオポート (VGA) と USB ポートに接続します。
2. シリアル管理ポート (SER MGT) 接続のみの場合は、端末デバイスで **Enter** を押し、シリアルコンソールと **Oracle ILOM SP** の間の接続を作成します。
Oracle ILOM の Login プロンプトが表示されます。
3. **Oracle ILOM** にログインします。Login プロンプトで、**Oracle ILOM** ユーザー名とパスワードを入力します。
デフォルトの Oracle ILOM ユーザー名は **root** であり、デフォルトのパスワードは **changeme** です。
Oracle ILOM コマンド行インタフェース (CLI) のプロンプト (->) が表示されます。
4. ホストコンソールに接続します。CLI プロンプトで、次のように入力します。
-> **start /HOST/console**

シリアル管理ポート出力は、Linux ホストシリアルローカルコンソールに自動的にルーティングされます。

関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.2 のドキュメントライブラリ (<http://www.oracle.com/goto/ilom/docs>)

▼ リモートコンソールを設定する

1. **サーバー SP の IP アドレスを表示または確立します。**

コマンド行インタフェース (CLI) または Web インタフェースを使用して Oracle ILOM にリモートでログインするには、サーバーのサービスプロセッサ (SP) の IP アドレスを知っている必要があります。手順については、『[Oracle Server X6-2 設置ガイド](#)』の「[Oracle ILOM へのログインまたはログアウト](#)」を参照してください。
2. **Web ベースのクライアント接続を使用している場合は、これらの手順を実行します。それ以外の場合は手順 3 に進みます。**
 - a. ブラウザのアドレスフィールドで、サーバー SP の IP アドレスを入力します。

Oracle ILOM の Login プロンプトが表示されます。
 - b. **Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。Login プロンプトで、Oracle ILOM ユーザー名とパスワードを入力します。**

デフォルトの Oracle ILOM ユーザー名は root であり、デフォルトのパスワードは changeme です。

Oracle ILOM の「Summary Information」ページが表示されます。
 - c. 「**Actions**」パネルで、「**Remote Console Launch**」ボタンをクリックします。

「Oracle ILOM Remote Console Plus」画面が表示されます。

手順については、『[Oracle Server X6-2 設置ガイド](#)』の「[Oracle ILOM を使用したホストコンソールのリダイレクト](#)」を参照してください。
3. **SSH クライアント接続を使用している場合は、次の手順を実行します。**
 - a. シリアルコンソールから、サーバー SP への SSH 接続を確立します。「ssh root@hostname」と入力します。

ここで、hostname にはサーバー SP の DNS 名または IP アドレスを指定できません。

Oracle ILOM の Login プロンプトが表示されます。

- b. **Oracle ILOM にログインします。Login プロンプトで、Oracle ILOM ユーザー名とパスワードを入力します。**

デフォルトの Oracle ILOM ユーザー名は root であり、デフォルトのパスワードは changeme です。

Oracle ILOM CLI のプロンプト (->) が表示されます。

- c. **ビデオ出力をサーバーから SSH クライアントにリダイレクトします。CLI プロンプトで、次のように入力します。**

```
-> start /HOST/console
```

関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.2 のドキュメントライブラリ (<http://www.oracle.com/goto/ilom/docs>)

ブート環境の準備

レガシー BIOS ブートモードはデフォルトで有効になっています。サポートされるすべての Linux オペレーティングシステムがレガシー BIOS と Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) の両方をサポートしているため、OS のインストールを実行する前に、ブートモードをレガシー BIOS と UEFI のいずれかに設定できます。Linux オペレーティングシステムをインストールする前に、実行する予定のインストールの種類をサポートするように UEFI 設定が構成されていることを確認するようにしてください。

BIOS モードを UEFI からレガシー BIOS に切り替える手順やその逆を行う手順の詳細については、『Oracle X6 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86adminddiag/docs>) を参照してください。

注記 - オペレーティングシステムをインストールしたあとで、レガシー BIOS から UEFI ブートモードに、またはその逆に切り替えることにした場合、オペレーティングシステムを再インストールする必要があります。

次のトピックでは、インストールをサポートするように UEFI を構成する方法について具体的に説明しています。

- [19 ページの「UEFI の最適なデフォルト値を確認する」](#)
- [21 ページの「ブートモードを設定する」](#)

ブートプロパティの変更の詳細については、『Oracle X6 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86admindiag/docs>) を参照してください。

▼ UEFI の最適なデフォルト値を確認する

注記 - 新しく設置されたサーバーにはじめてオペレーティングシステムをインストールする場合、UEFI ファームウェアはおそらく最適なデフォルトの設定に構成されているため、この手順を実行する必要はありません。

BIOS 設定ユーティリティでは、必要に応じて UEFI 設定を表示および編集するだけでなく、最適なデフォルト値を設定することもできます。最適なデフォルト値を設定することで、サーバーが既知の適切な構成で効率的に動作するようになります。最適なデフォルト値は、『Oracle Server X6-2 サービスマニュアル』で確認できます。

BIOS 設定ユーティリティで F2 キーを使用して行なった変更はすべて、次にそれを変更するまで保持されます。

F2 キーを使用してシステムの BIOS 設定を表示または編集するだけでなく、BIOS の起動中に F8 を使用して一時ブートデバイスを指定することもできます。F8 を使用して一時ブートデバイスを設定した場合、この変更は現在のシステムブートのみで有効です。一時ブートデバイスからブートしたあとは、F2 を使用して指定された常時ブートデバイスが有効になったままです。

開始する前に、次の要件が満たされていることを確認してください。

- サーバーにハードディスクドライブ (HDD) またはソリッドステートドライブ (SSD) が搭載されていること。
- HDD または SSD がサーバーに正しく取り付けられていること。手順については、『Oracle Server X6-2 サービスマニュアル』の「ストレージドライブの保守 (CRU)」を参照してください。
- サーバーへのコンソール接続が確立されていること。詳細は、15 ページの「コンソール表示オプションの選択」を参照してください。

1. サーバーをリセットするか、電源を投入します。

たとえば、サーバーをリセットするには次のいずれかを実行します。

- **ローカルサーバーでは**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから** 「Host Management」-> 「Power Control」をクリックし、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択してから、「Save」をクリックします。

- Oracle ILOM CLI で `reset /System` と入力します

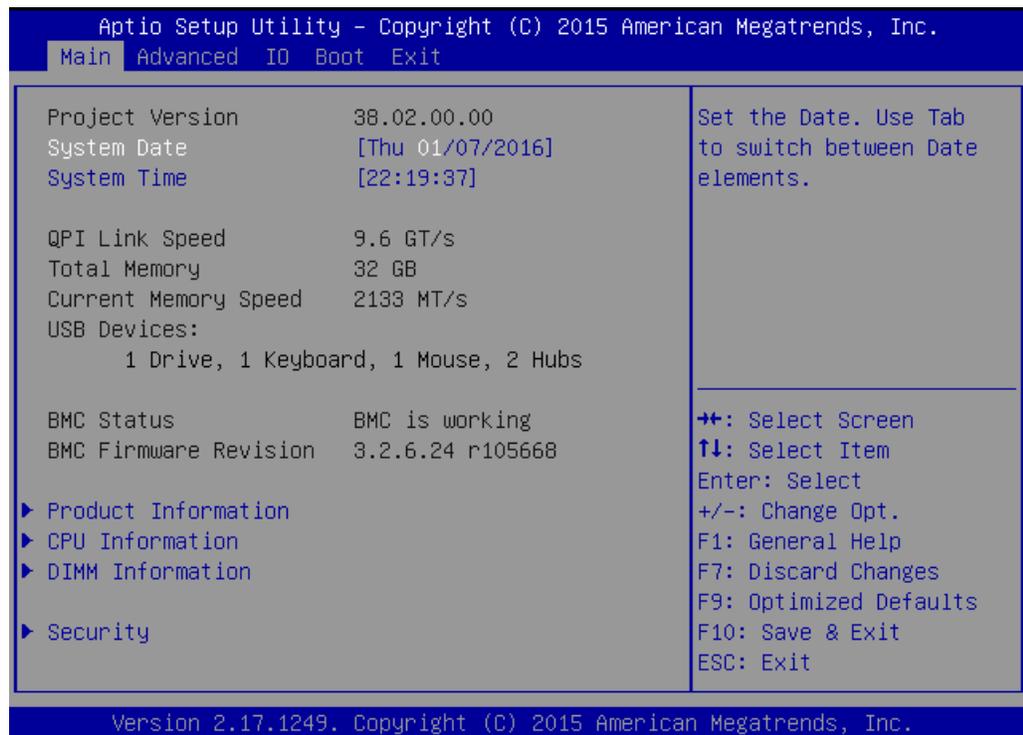
サーバーがブートプロセスを開始します。しばらくすると、BIOS 画面が表示されます。

注記 - 次の手順がすぐに発生するため、F2 キーを押せるようにしておきます。



2. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティーにアクセスします。

[Setup Selected] およびブートモード (レガシーまたは UEFI) が BIOS 画面の最下部に表示されたあと、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。



3. 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、F10 キーを押します。あるいは、「Exit」メニューで「Save and Exit」を選択することもできます。

▼ ブートモードを設定する

サーバーの UEFI ファームウェアでは、レガシーブートモードと UEFI ブートモードの両方がサポートされます。レガシーブートモードはデフォルトで有効になっています。サポートされるすべての Linux オペレーティングシステムがレガシー BIOS と UEFI の両方をサポートしているため、OS のインストールを実行する前に、ブートモードをレガシーと UEFI のいずれかに設定できます。

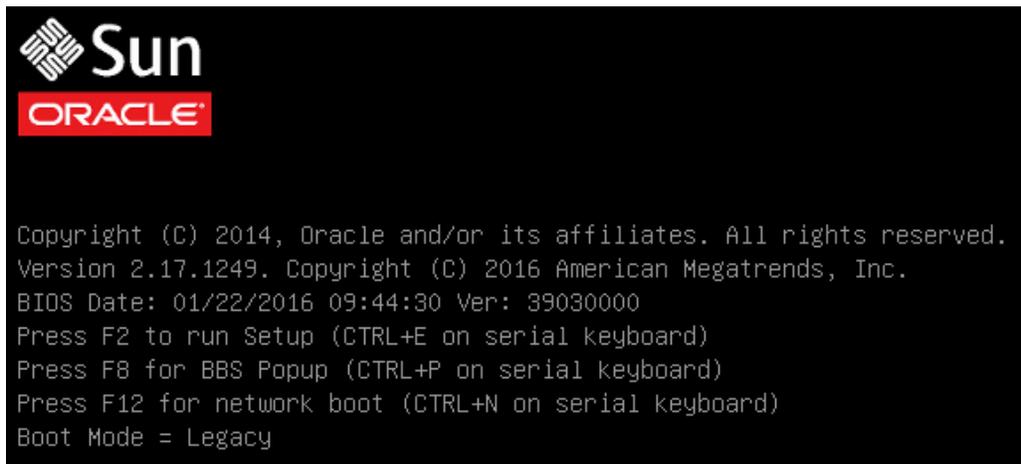
注記 - オペレーティングシステムをインストールしたあとで、レガシーから UEFI ブートモードに切り替えることにした場合、オペレーティングシステムを再インストールする必要があります。

1. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

たとえば、サーバーをリセットするには次のいずれかを実行します。

- **ローカルサーバーで**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押し、サーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから** 「Host Management」-> 「Power Control」をクリックし、「Select Action」リストボックスから 「Reset」を選択してから、「Save」をクリックします。
- **Oracle ILOM CLI で** `reset /System` と入力します

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。



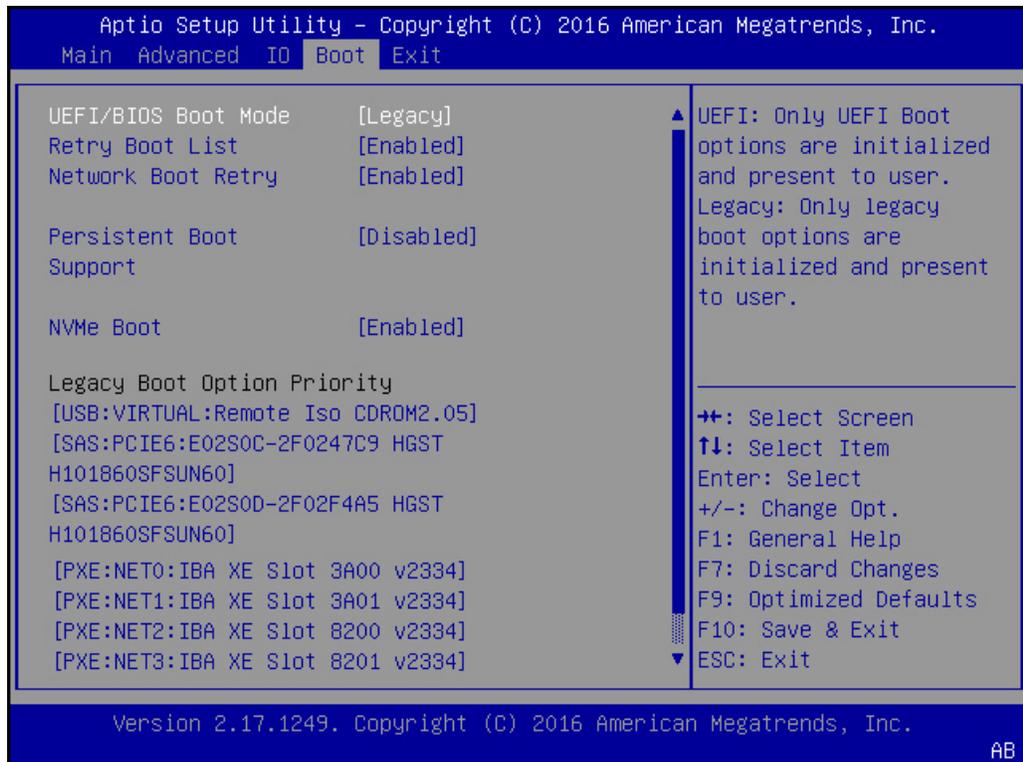
注記 - 次の手順がすぐに発生するため、F2 キーを押せるようにしておきます。

2. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。

[Setup Selected] およびブートモード (レガシーまたは UEFI) が BIOS 画面の最下部に表示されたあと、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。

3. BIOS 設定ユーティリティで、矢印キーを使用して「Boot」メニューに移動します。

「Boot」メニュー画面が表示されます。「UEFI/BIOS Boot Mode」フィールドに現在のブートモードが表示されます。



注記 - ブート順のリストのオプションは、ストレージドライブ構成と、Persistent Boot Support 機能を有効にしているかどうかによって異なります。Persistent Boot Support についての詳細は、『Oracle X6 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86admindiag/docs>) を参照してください。

4. 下矢印キーを使用して「UEFI/BIOS Boot Mode」フィールドを選択し、Enter を押します。
5. 目的のブートモードを選択し、Enter を押します。

オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、ブートモードを選択する必要があります。

6. 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティーを終了するには、F10 キーを押します。あるいは、「Exit」メニューで「Save Changes and Exit」を選択することもできます。

ブートメディアオプションの選択

サーバーへのオペレーティングシステムのインストールを開始するには、ローカルまたはリモートのインストールメディアソースをブートします。このセクションでは、サポートされているメディアソースと各ソースのセットアップ要件について説明します。

- [24 ページの「ブートメディアオプションの要件」](#)
- [25 ページの「ローカルインストール用のブートメディアを設定する」](#)
- [26 ページの「リモートインストール用のブートメディアを設定する」](#)

ブートメディアオプションの要件

このセクションでは、ローカルおよびリモートメディアを使用するための要件について説明します。

- [24 ページの「ローカルブートメディアの要件」](#)
- [24 ページの「リモートブートメディアの要件」](#)

ローカルブートメディアの要件

ローカルブートメディアには、サーバー上の組み込み型ストレージデバイスまたはサーバーに接続された外付けのストレージデバイスが必要です。

DVD インストールメディアは、次のどの方法でも使用できます。

- インストールメディア DVD は、サーバー DVD ドライブに挿入できます。
- インストールメディア DVD は、サーバーに接続している外付け DVD ドライブに挿入できます。
- インストールメディアは、USB フラッシュドライブにコピーして、サーバーの外付け USB ポートか内蔵 USB ポートのいずれかに挿入できます。

リモートブートメディアの要件

リモートブートメディアを使用すると、ネットワークを介してインストールをブートできます。インストールは、リダイレクトされたブートストレージデバイスか、

PreBoot eXecution Environment (PXE) を使ってネットワーク経由で ISO イメージをエクスポートする別のネットワークシステムから開始できます。

サポートされている OS のリモートブートメディアソースには、次のものがあります。

- リモート DVD ドライブに挿入された DVD-ROM インストールメディア、または着脱可能なリモートの USB フラッシュドライブインストールメディア
- 仮想リダイレクション用に設定されたネットワーク上の場所で使用できる DVD ISO イメージ
- サーバーのサービスプロセッサ (SP) 上にマウントされた DVD-ROM インストールメディアイメージ
インストールイメージをサーバー SP にマウントする手順については、『Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/ilom/docs>) を参照してください。あるいは、Oracle ILOM の「Remote Control」->「Remote Device」Web インタフェースページの「More Details」リンクを参照してください。
- PXE ネットワークブートとして使用できるようにした DVD/ISO イメージ。サポートされている Linux オペレーティングシステムの PXE ネットワークインストールを実行する手順については、次の各セクションで説明されています。
 - [59 ページの「PXE ネットワークブートを使用した Oracle Linux 6.7 および 7.2 OS のインストール」](#)
 - [70 ページの「PXE ネットワークブートを使用して RHEL 6.7 または 7.2 OS をインストールする」](#)

▼ ローカルインストール用のブートメディアを設定する

1. サーバーにオプションの DVD ドライブが装備されている場合は、サーバー前面の DVD ドライブに Linux OS インストール DVD を挿入します。それ以外の場合は、次の手順に進みます。
2. サーバーに DVD ドライブが装備されていない場合は、サーバーの前面および背面に配置されている外部 USB ポートのいずれかに、Linux OS のインストールメディアを含む外付け USB DVD ドライブまたは USB フラッシュドライブを挿入します。

サーバーの外部 USB ポートの場所については、『Oracle Server X6-2 設置ガイド』の「サーバーの機能とコンポーネント」を参照してください。

ローカルデバイスをサーバーに接続する方法については、『Oracle Server X6-2 設置ガイド』の「サーバーのケーブル接続と電源の投入」を参照してください。

▼ リモートインストール用のブートメディアを設定する

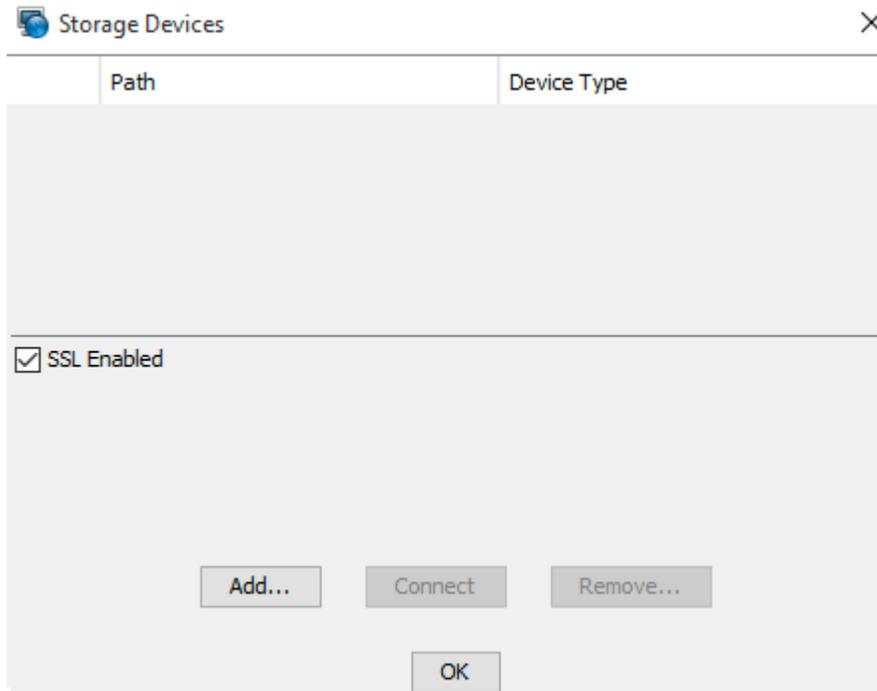
1. ブートメディアを、次のようなストレージデバイスに挿入します。
 - **DVD-ROM の場合は**、リモートワークステーション上の内蔵または外付けの DVD-ROM ドライブにメディアを挿入します。
 - **DVD-ROM ISO イメージの場合は**、ネットワーク共有された場所で ISO イメージがすぐに利用できること、または ISO イメージがサーバーのサービスプロセッサ (SP) にマウントされていることを確認します。

インストールイメージをサーバー SP にマウントする手順については、『Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs>) を参照してください。あるいは、Oracle ILOM の「Remote Control」->「Remote Device」Web インタフェースページの「More Details」リンクを参照してください。

2. サーバーの Oracle ILOM SP への Web ベースのクライアント接続を確立し、Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを起動します。

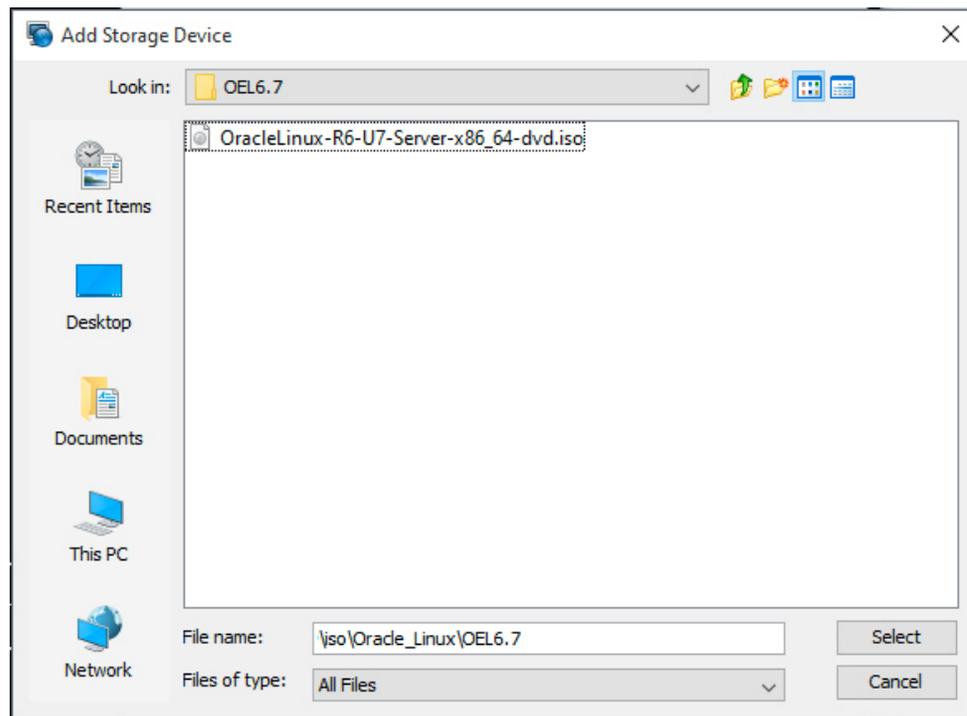
手順については、17 ページの「リモートコンソールを設定する」を参照してください。
3. リモートコンソールで、次を実行します。
 - a. 「KVMS」をクリックし、KVMS ドロップダウンメニューを表示します。
 - b. 「Storage」をクリックします。

「Storage Devices」ダイアログが表示されます。



- c. 「Storage Devices」ダイアログで、「Add」をクリックします。

「Add Storage Device」ダイアログが表示されます。



- d. ISO イメージを参照して選択し、「Select」をクリックします。
「Storage Devices」画面が表示され、ISO イメージの一覧が表示されます。
- e. ISO イメージを選択し、「Connect」をクリックします。
ISO イメージがリモートコンソールにマウントされ、OS インストールの実行に使用できるようになります。

インストール先の選択

このセクションでは、インストール先を設定する方法について説明します。

- [29 ページの「インストール先オプション」](#)
- [29 ページの「ローカルストレージドライブ \(HDD、SSD、または RAID ボリューム\) をインストール先として設定する」](#)

- 30 ページの「ファイバチャネル Storage Area Network デバイスをインストール先として設定する」

インストール先オプション

(サーバーのフロントパネルにある) オプションの NVM Express (NVMe) ドライブを除き、サーバーに取り付けられたどのストレージドライブにもオペレーティングシステムをインストールできます。ハードディスクドライブ (HDD)、ソリッドステートドライブ (SSD)、および RAID ボリュームは、Linux OS の有効なインストール先です。

ファイバチャネル (FC) PCIe ホストバスアダプタ (HBA) を備えたサーバーでは、オペレーティングシステムを外付けのファイバチャネルストレージデバイスにインストールすることも選択できます。

注記 -

- NVMe ドライブは、Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムではサポートされていないため、インストール先として使用するべきではありません。
 - NVMe ドライブは、Oracle Linux オペレーティングシステムを実行しているサーバーでサポートされており、インストール先として使用できます。
-

▼ ローカルストレージドライブ (HDD、SSD、または RAID ボリューム) をインストール先として設定する

1. ターゲットドライブ (HDD または SSD) が正しく取り付けられ、電源が入っていることを確認します。

HDD または SSD の取り付けおよび電源投入については、『Oracle Server X6-2 サービスマニュアル』の「ストレージドライブの保守 (CRU)」を参照してください。

2. ターゲットドライブが環境に合わせて構成されていることを確認します。

デフォルトでは、サーバー上の各物理デバイスは論理 RAID 0 ボリュームとして確認されています。代替構成を実装するには、次のリソースを参照してください。

- 『Oracle Server X6-2 設置ガイド』の「オペレーティングシステムインストールのためのストレージドライブの構成」
- 『Oracle X6 シリーズサーバー管理ガイド』 (<http://www.oracle.com/goto/x86adminddiag/docs>)

▼ ファイバチャネル Storage Area Network デバイスをインストール先として設定する

1. サーバーにファイバチャネル PCIe HBA が正しく取り付けられていることを確認します。

ファイバチャネル PCIe HBA オプションの設置方法については、『Oracle Server X6-2 サービスマニュアル』の「PCIe カード (CRU) の保守」を参照してください。

2. **Storage Area Network (SAN)** をインストールおよび構成して、サーバーホストでストレージデバイスが認識されるようにします。

手順については、ファイバチャネル HBA 付属のドキュメントを参照してください。

RAID の構成

RAID 構成でサーバーストレージドライブを構成する場合は、Linux OS をインストールする前にサーバー上に RAID を構成します。RAID を構成する方法については、『Oracle Server X6-2 設置ガイド』の「オペレーティングシステムインストールのためのストレージドライブの構成」を参照してください。

注記 - ドライブが HBA によってボリュームに組み込まれていないと、システムはドライブを認識しません。したがって、OS をインストールする前に、OS のインストール先となるボリュームをブート可能ボリュームとして設定しておく必要があります。

関連情報

- 『Oracle X6 シリーズサーバー管理ガイド』 (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>)

Linux オペレーティングシステムのインストール

このセクションでは、Oracle Linux および Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムとシステム固有のドライバをサーバーにインストールする手順について説明します。

説明	リンク
メディアを使用した Oracle Linux オペレーティングシステムの単一サーバーへのインストール。	32 ページの「単一システムへの Oracle Linux の手動インストール」
メディアを使用した Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムの単一サーバーへのインストール。	64 ページの「Red Hat Enterprise Linux OS の単一システムへの手動インストール」

開始する前に

次の要件が満たされていることを確認します。

- ブートドライブ (OS のインストール先ストレージドライブ) を RAID 用に構成する場合は、Linux OS をインストールする前にそれを実行する必要があります。サーバーで RAID を構成する方法については、[『Oracle Server X6-2 設置ガイド』の「オペレーティングシステムインストールのためのストレージドライブの構成」](#)を参照してください。
- ファームウェアを目的のブートモード (レガシー BIOS または UEFI) に設定します。ブートモードを設定する方法については、[21 ページの「ブートモードを設定する」](#)を参照してください。
- UEFI ファームウェアの設定が正しく設定されていることを確認します。UEFI ファームウェアの設定を確認し、必要に応じてそれを設定する方法については、[18 ページの「ブート環境の準備」](#)を参照してください。
- インストールの実行前に、コンソール表示オプションが選択および設定されていること。このオプションの詳細は、[15 ページの「コンソール表示オプションの選択」](#)を参照してください。

- インストールの実行前に、ブートメディアオプションが選択および設定されていること。このオプションおよび設定手順の詳細は、[24 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。
- インストールの実行前に、インストール先オプションが選択および設定されていること。このオプションおよび設定手順の詳細は、[28 ページの「インストール先の選択」](#)を参照してください。

単一システムへの Oracle Linux の手動インストール

このセクションでは、Oracle Linux 6.7 for x86 (64 ビット) オペレーティングシステムのインストール方法について説明します。

- [32 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して Oracle Linux 6.7 OS をインストールする」](#)
- [54 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して Oracle Linux 7.2 OS をインストールする」](#)
- [59 ページの「PXE ネットワークブートを使用した Oracle Linux 6.7 および 7.2 OS のインストール」](#)
- [63 ページの「Oracle Linux 6.7 または 7.2 OS のインストール後のタスク」](#)

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して Oracle Linux 6.7 OS をインストールする

この手順では、ローカルまたはリモートメディアから Oracle Linux オペレーティングシステムをインストールする方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースから Oracle Linux のインストールメディアをブートすることを前提にしています。

- Oracle Linux 6.7 DVD セット。
- Oracle Linux 6.7 の ISO DVD イメージ (ネットワークリポジトリ)

PXE 環境からインストールメディアをブートしている場合は、[59 ページの「PXE ネットワークブートを使用した Oracle Linux 6.7 および 7.2 OS のインストール」](#)で手順を参照してください。

1. **インストールメディアがブートできることを確認します。**
 - **配布 DVD の場合**、ローカルまたはリモート DVD ドライブに、Oracle Linux 6.7 配布メディアブートディスク (DVD) を挿入します。

- **ISO イメージの場合は**、Oracle Linux 6.7 ISO イメージが使用可能であり、その ISO イメージが KVMs メニューを使用して Oracle ILOM リモートシステムコンソール プラスアプリケーションにマウントされていることを確認します。

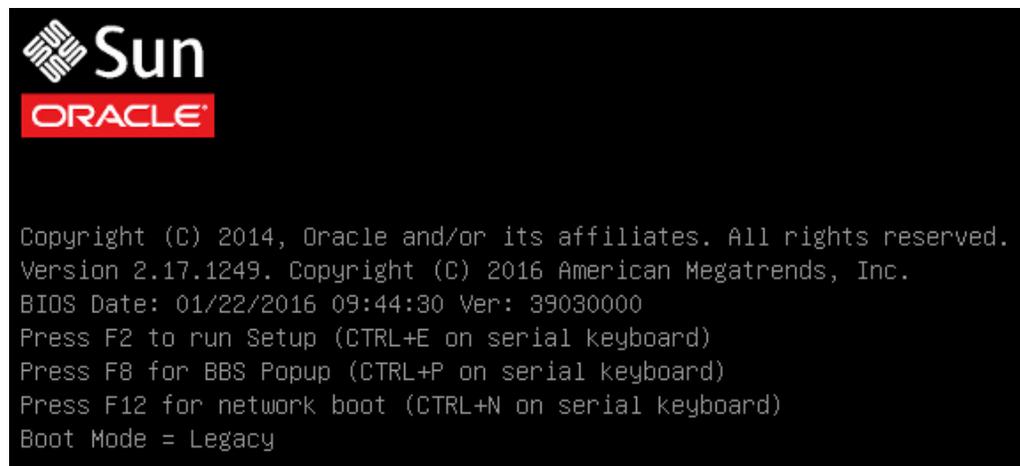
インストールメディアを設定する方法については、[24 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。

2. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

たとえば、サーバーをリセットするには、次のいずれかを行います。

- **ローカルサーバーで**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押してサーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから** 「Host Management」-> 「Power Control」をクリックし、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択してから、「Save」をクリックします。
- **Oracle ILOM CLI で** `reset /System` と入力します

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。

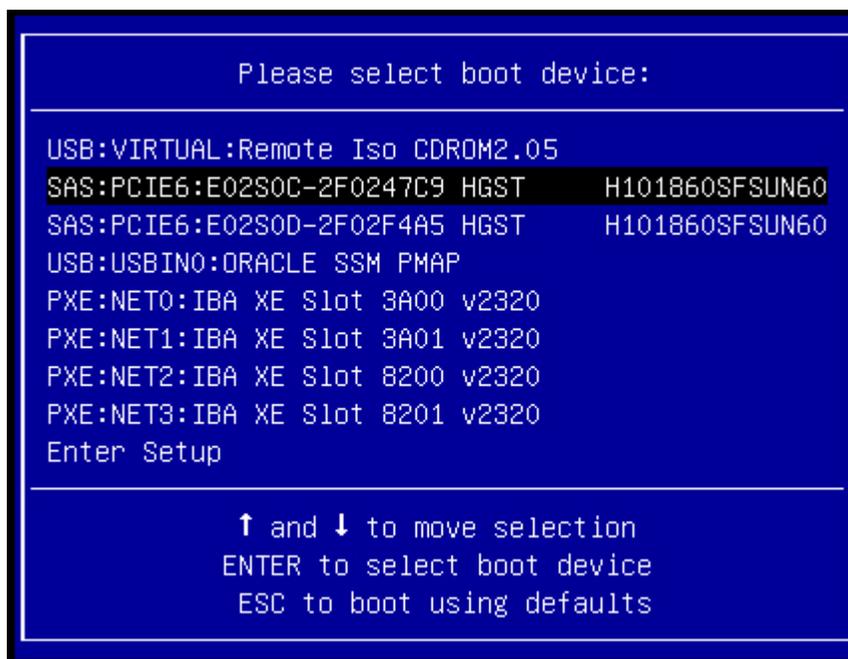


注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、F8 キーを押せるようにしておきます。画面に表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

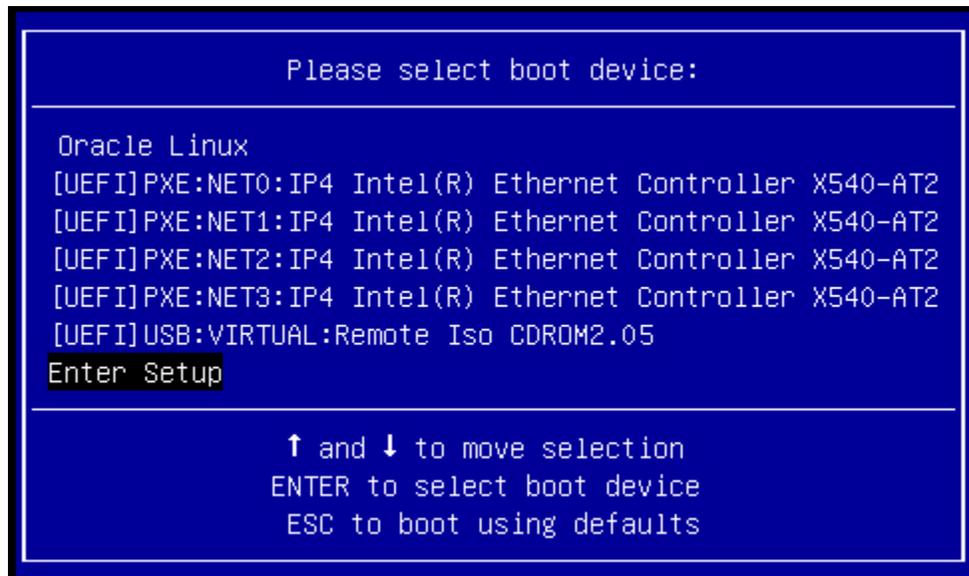
3. BIOS 画面で、F8 キーを押して、Linux OS のインストールで使用する一時ブートデバイスを指定します。

[Boot Pop Up Menu Selected] が BIOS 画面の最下部に表示され、「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。表示される画面は、「UEFI/BIOS Boot Mode」をレガシー BIOS に構成したか UEFI に構成したかに応じて異なります。

- レガシー BIOS ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。



- UEFI ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。

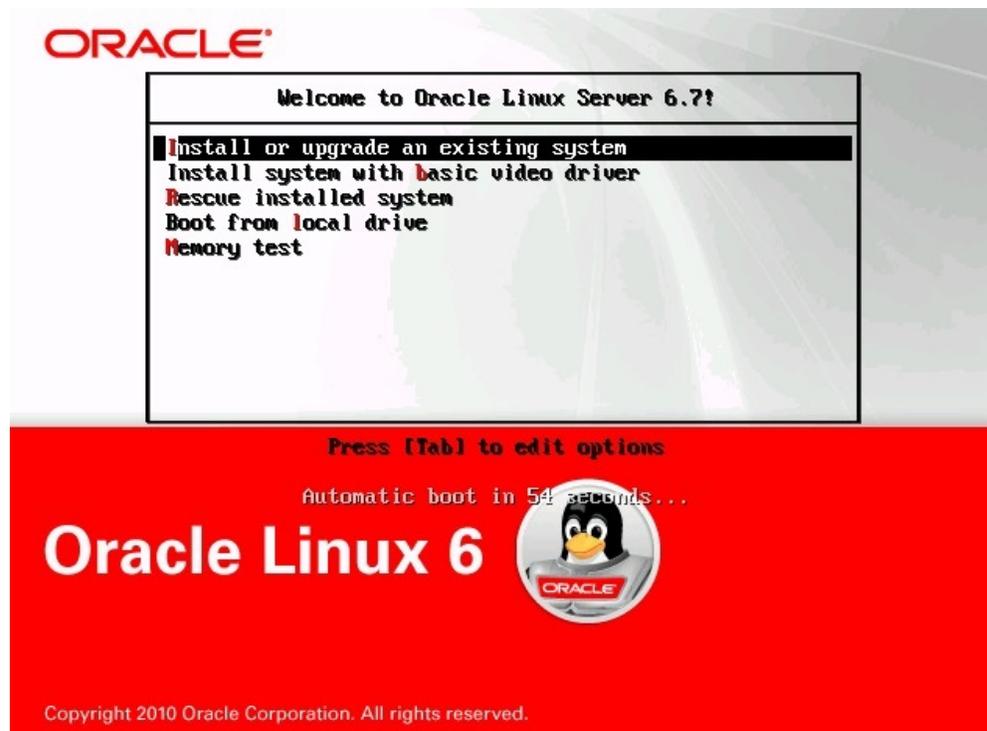


注記 - インストール時に表示される「Please Select Boot Device」メニューは、サーバーに取り付けられているディスクコントローラのタイプや、PCIe ネットワークカードなどのほかのハードウェアによって異なる場合があります。

4. 「Please Select Boot Device」メニューで、使用対象として選択した Linux OS メディアのインストール方法と BIOS モードに応じたメニュー項目を選択し、Enter を押します。

例:

- レガシー BIOS ブートモードで Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションの配布方法を使用するには、レガシー BIOS 画面で USB: VIRTUAL:Remote Iso CDR0M2.04 を選択します。
 - UEFI ブートモードで Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションの配布方法を使用するには、UEFI 画面で [UEFI]USB:VIRTUAL: Remote Iso CDR0M2.04 を選択します。
5. インストールプログラムによって表示される次の画面は、レガシー BIOS ブートモードまたは UEFI ブートモードのどちらを選択したかによって異なります。
 - レガシー BIOS ブートモードを選択した場合は、「Welcome to Oracle Linux Server」ブート画面が表示されます。たとえば、Oracle Linux 6.7 の場合:



- UEFI ブートモードを選択した場合は、「Booting Oracle Linux Server」ブート画面が表示されます。たとえば、Oracle Linux 6.7 の場合:



6. このインストールを行うために、次のいずれかを実行します。

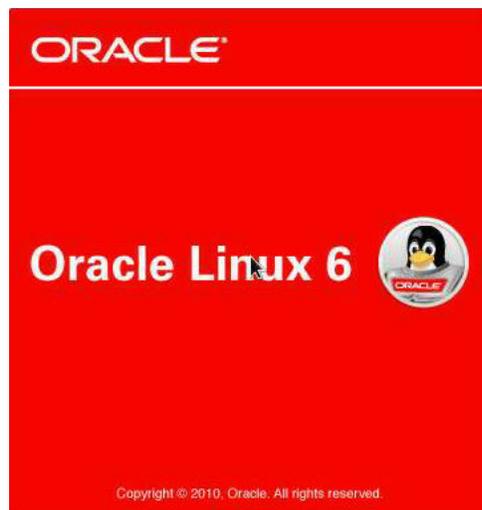
- レガシー BIOS ブートモードでインストールを実行するには、デフォルトを受け入れて Enter を押します。
- UEFI ブートモードでインストールを実行するには、Enter を押すか、画面がタイムアウトになるまで待ちます。

「Disc Found」画面が表示されます。

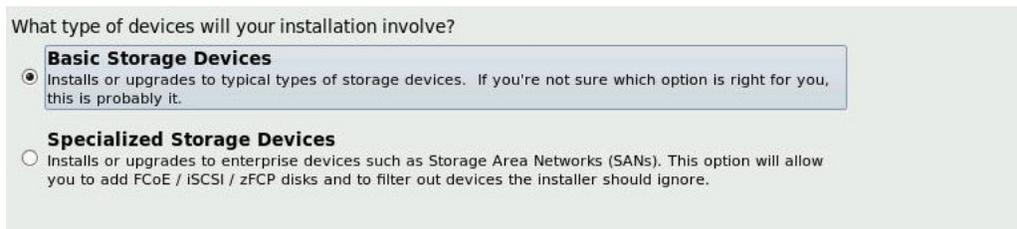


7. 今回はじめて、このメディアからインストールを実行する場合は、「OK」を選択してメディアをテストすることをお勧めします。それ以外の場合は「skip」を選択して Enter を押します。

Oracle Linux 6 のスプラッシュ画面が表示されます。



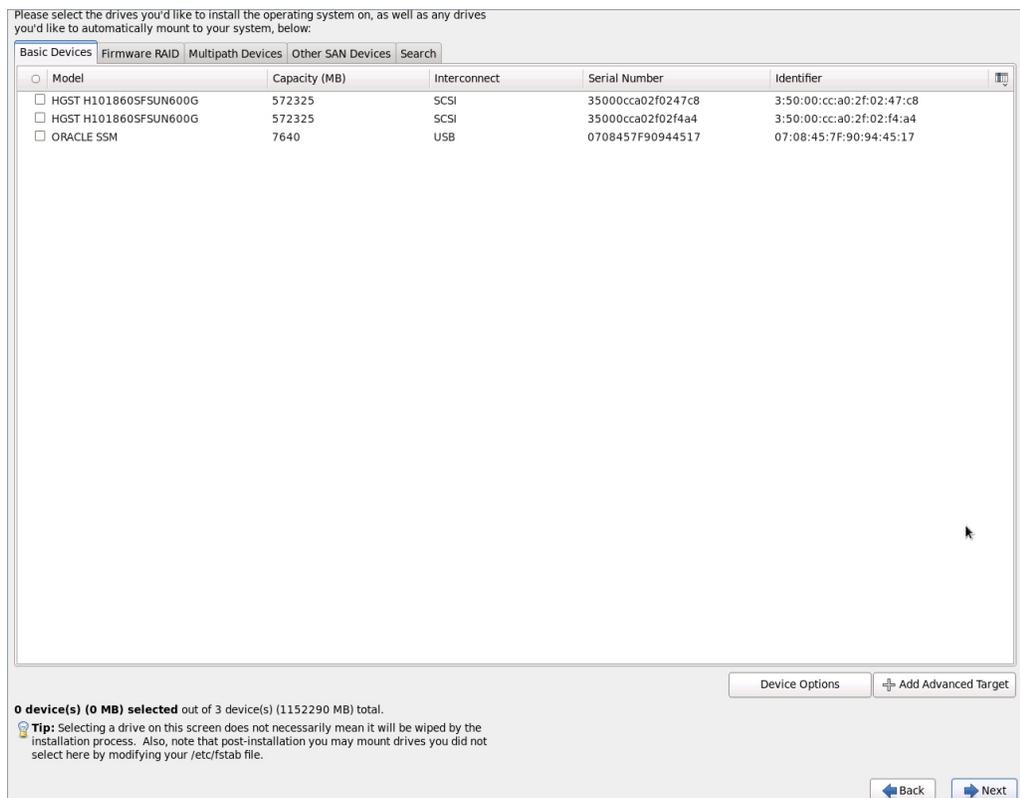
8. **Oracle Linux 6 のスプラッシュ画面の最下部にスクロールし、「Next」をクリックします。**
「What language would you like to use during the installation process?」画面が表示されます。
9. **適切な言語を選択し、「Next」をクリックします。**
「このシステム用の適切なキーボードを選択します。」画面が表示されます。
10. **適切なキーボード構成を選択し、「次」をクリックします。**
「どちらのタイプのストレージデバイスにインストールしますか?」画面が表示されます。



11. **上記の画面で、「エンタープライズストレージデバイス」を選択し、画面の最下部までスクロールして、「次」を選択します。**

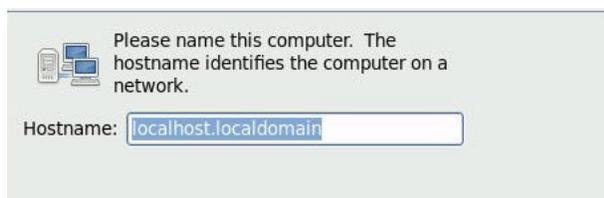
注記 - 「エンタープライズストレージデバイス」を選択すると、次の画面で Oracle SSM の選択を解除できます。これにより、この手動インストールの残りの作業が簡単になります。

「オペレーティングシステムをインストールするドライブを選択してください」画面が表示されます。



12. オペレーティングシステムをインストールするストレージドライブを選択し、画面の最下部までスクロールして、「次」をクリックします。

「このコンピュータのホスト名を指定してください」画面が表示されます。



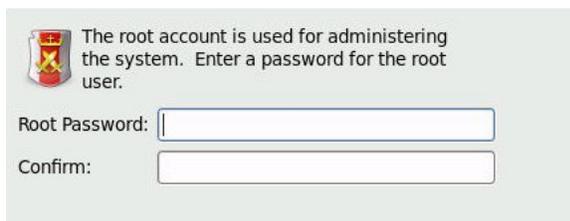
13. ホスト名を入力し、「次」をクリックします。
タイムゾーン選択の画面が表示されます。



14. 適切な地域および都市を選択し、「次」をクリックします。

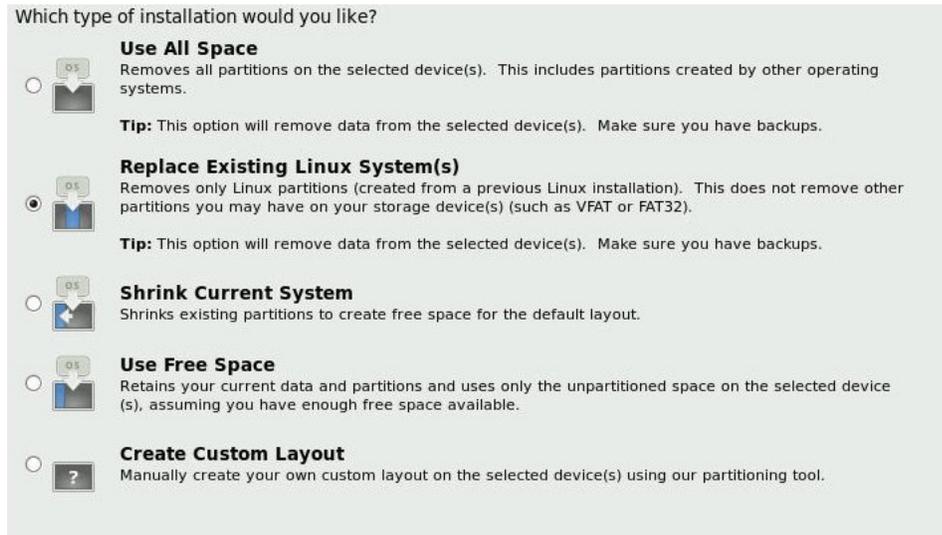
注記 - NTP サービスが必要な場合、オペレーティングシステムのインストール後にセットアップできます。

「root パスワード」画面が表示されます。



15. root パスワードを入力し、「次」をクリックします。

「どのタイプのインストールをしますか?」画面が表示されます。



16. 前述の画面で適切なオプションを選択し、「次」をクリックします。

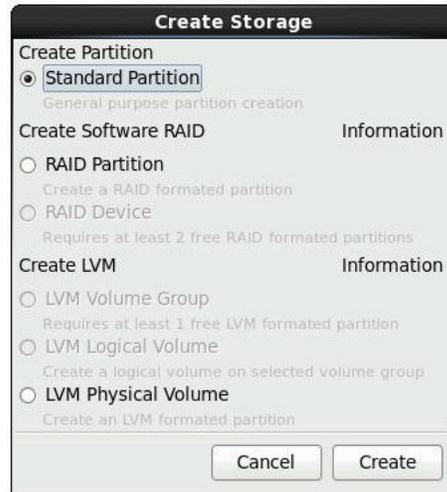
たとえば、オペレーティングシステムをインストールするストレージドライブが空で、「カスタムレイアウトを作成する」を選択した場合、「デバイスを1つ選択してください」画面が表示されます。



17. パーティションを作成するには、次を行います。

- a. 画面の最下部にスクロールして「作成」をクリックします。

「ストレージの作成」ダイアログが表示されます。



- b. 「標準のパーティション」を選択し、「作成」をクリックします。

「パーティションの追加」ダイアログボックスが表示されます。

The screenshot shows the 'Add Partition' dialog box with the following settings:

- Mount Point: (empty)
- File System Type: ext4
- Allowable Drives: A table with columns Drive, Size, and Model. The entry 'sda' with size '572326 MB' and model 'HGST H101860SFSUN600G' is selected with a checkmark.
- Size (MB): 200
- Additional Size Options: 'Fixed size' is selected.
- Other options: 'Fill all space up to (MB):' is set to 1, 'Fill to maximum allowable size' is unselected, 'Force to be a primary partition' is unselected, and 'Encrypt' is unselected.

- c. ダイアログで、「マウントポイント」を /boot に設定し、「ファイルシステムタイプ」を ext4 のままにし、「サイズ (MB)」を 200 に設定します。

更新された「パーティションの追加」ダイアログを次に示します。

Add Partition

Mount Point: /boot

File System Type: ext4

<input type="checkbox"/>	Drive	Size	Model
<input checked="" type="checkbox"/>	sda	572326 MB	HGST H101860SFSUN600G

Allowable Drives:

Size (MB): 200

Additional Size Options

Fixed size

Fill all space up to (MB): 1

Fill to maximum allowable size

Force to be a primary partition

Encrypt

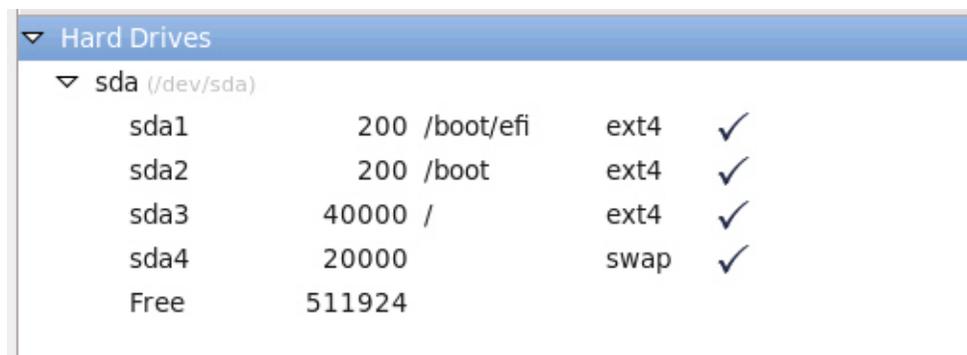
Cancel OK

- d. 「OK」をクリックします。
パーティションが作成されます。
- e. 上記の手順 a から手順 d までを繰り返し、次の追加パーティションを作成します。

マウントポイント	ファイルシステムタイプ	サイズ (MB)
/boot/efi 注記 - このパーティションは UEFI ブートモードを選択した	EFI システムパーティション	200

マウントポイント	ファイルシステムタイプ	サイズ (MB)
場合にのみ作成できます。レガシー BIOS ブートモードではサポートされません。		
/	ext4	20000
なし	スワップ	16384

更新されたパーティション画面が表示されます。



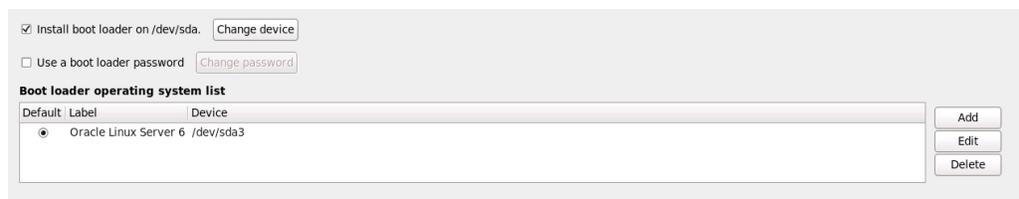
18. 「次」をクリックしてパーティションを適用します。

次のダイアログが表示されます。



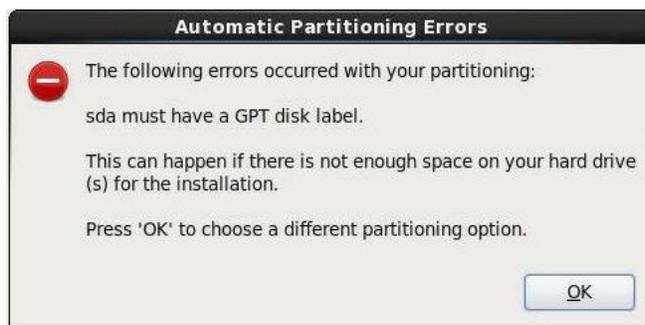
19. 「変更をディスクに書き込む」をクリックします。

ディスクパーティションエラーがない場合は、ブートローダーのインストール画面が表示され、[ステップ 21](#)に進みます。ディスクパーティションエラーがある場合は、[ステップ 20](#)に進みます。



20. インストール先のディスクにデータ形式の問題がある場合は、「自動パーティション設定エラー」画面が表示されます。

注記 - オペレーティングシステムを UEFI ブートモードでインストールしている場合、GUID パーティションテーブル (GPT) フォーマット済みディスクが必要なため、次の画面が表示されます。レガシー BIOS ブートモードでインストールしているときにディスクフォーマットのエラーが発生した場合、マスターブートレコード (MBR) フォーマット済みディスクが必要なことを示す類似の画面が表示されます。



上の画面が表示された場合は、Oracle Linux をインストールしようとしているディスクが間違っていてフォーマットされており、このディスクを再フォーマットする必要があります。

注記 - このエラーは、以前レガシー BIOS フォーマットでデータを保存するのに使用していたストレージドライブに、UEFI ブートモード OS インストールを実行しようとした場合、またはその逆の場合に発生します。UEFI は GPT フォーマットを使用しますが、レガシー BIOS はストレージドライブを MBR フォーマットでフォーマットします。サーバーの出荷時に装備されていたストレージドライブは新しいものなので、フォーマットされていません。フォーマットされていないディスクにインストールする場合には、このエラーは表示されません。

インストールを中止せずにディスクを回復して再フォーマットするには、インストール画面でキーボードの「戻る」ボタンを数回クリックし、[ステップ 7](#) に示す最初の Oracle Linux スプラッシュ画面に戻って、これらの手順を実行します。

- a. 回復シェルを開始するには、**Ctrl+Alt+F2** と入力します。

シェルが表示されます。

- b. このインストールの必要に応じて **GPT 形式** または **MBR 形式** でディスクを再フォーマットするには、次の画面に示すようにシェルコマンドを入力します。

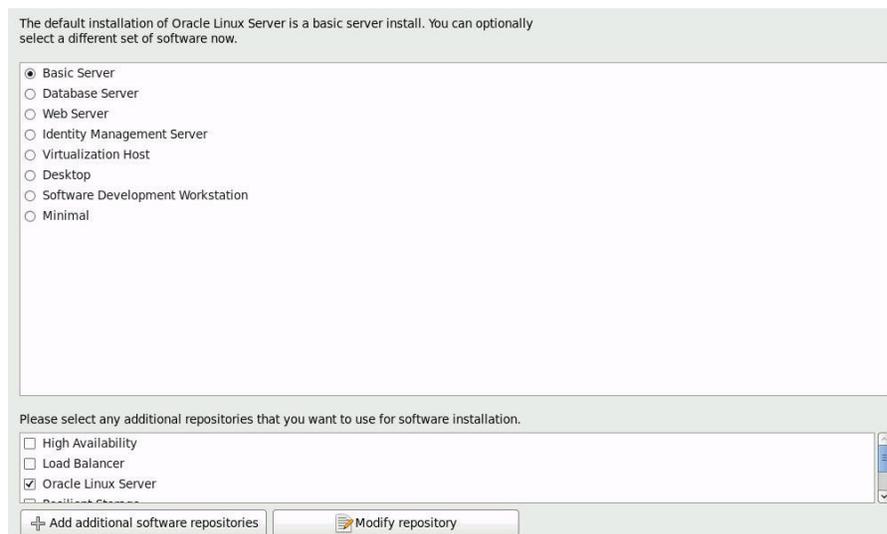
```
anaconda root@localhost /]# parted /dev/sda
GNU Parted 2.1
Using /dev/sda
Welcome to GNU Parted! Type ???help' to view a list of commands.
(parted) p
Model: HITACHI H101860SFSUN600G (scsi)
Disk /dev/sda: 600GB
Sector size (logical/physical): 512B/512B
Partition Table: msdos (or gpt for Legacy BIOS Boot Mode)
Number  Start  End      Size    Type   File system  Flags
 1       1049kB  21.5GB  21.5GB  primary ext2
(parted) mklabel
New disk label type? gpt (or msdos for Legacy BIOS Boot Mode)
Warning: The existing disk label on /dev/sda will be destroyed and all data will be
lost.
Do you want to continue?
Yes/No? yes
(parted) p
Model: HITACHI H101860SFSUN600G (scsi)
Disk /dev/sda: 600GB
Sector size (logical/physical): 512B/512B
Partition Table: gpt
Number  Start  End      Size    File system  Name  Flags
(parted) g
Information: You may need to update /etc/fstab.
anaconda root@localhost /]#
```

- c. **Ctrl+Alt+F6** と入力して、グラフィカルインストール画面に戻り、Oracle Linux スプラッシュ画面の時点からインストールを続行します ([ステップ 7](#) に移動します)。

注記 - ほとんどの場合、このインストールで入力した値は保存されているため、それらの値を再入力する必要はありません。

21. ブートローダーのインストール画面で、`/dev/sda1` へのブートローダーのインストールを選択し、「次」を選択します。

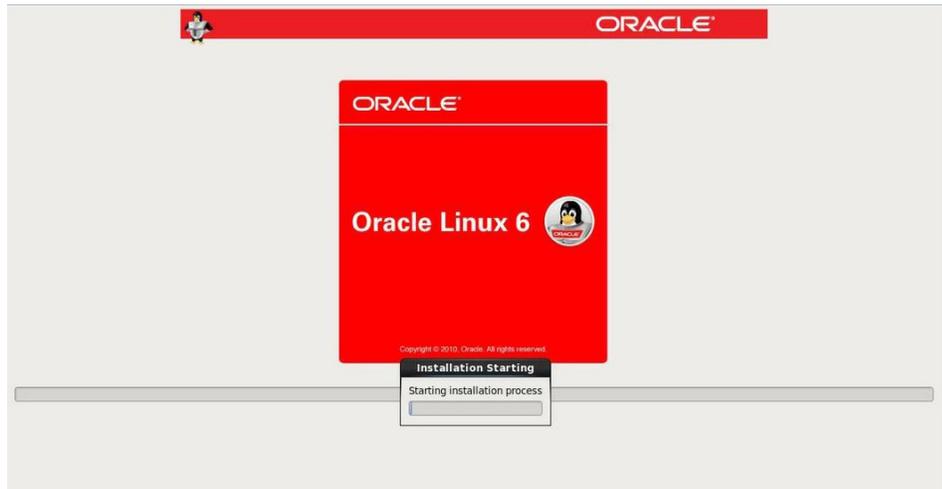
「インストールするサーバーソフトウェアの選択」画面が表示されます。



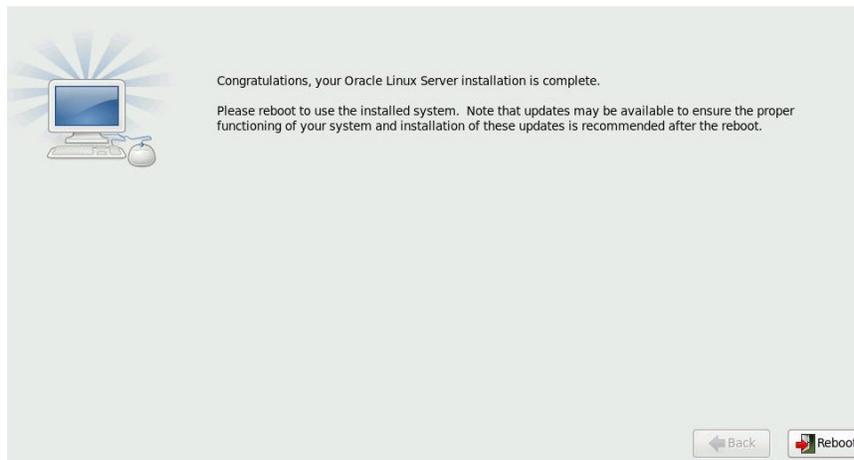
「基本サーバー」がデフォルトのサーバーソフトウェアのインストールですが、別のソフトウェアのセットをオプションで選択することもできます。さらに、この画面の最下部で「今すぐカスタマイズ」を選択して、選択されたソフトウェアのカスタムインストールを行うこともできます。

22. このサンプルインストールを行うために、デフォルトオプションである「基本サーバー」を指定して、「次」をクリックします。

「インストール処理の開始」画面が表示されます。

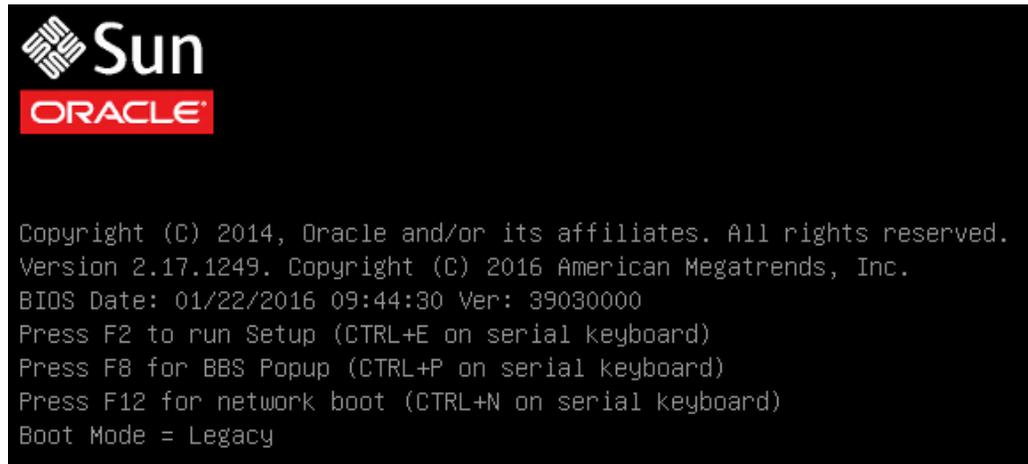


23. **Oracle Linux OS のインストールが完了するまで待ちます。**
インストールが完了すると、次の画面が表示されます。



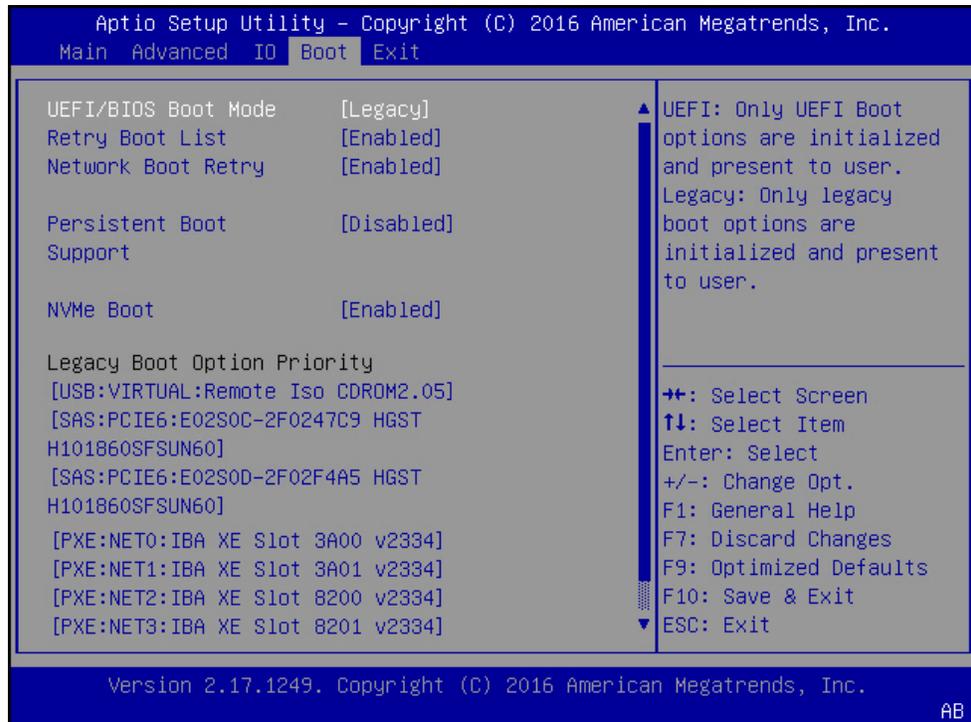
24. **Oracle Linux インストールをリブートするには、「リブート」をクリックします。**

サーバーがリブートし、BIOS 画面が表示されます。



25. **BIOS 設定ユーティリティにアクセスして、インストールしたオペレーティングシステムからブートするようにサーバーを設定するには、F2 キーを押します。**
BIOS 設定ユーティリティ画面が表示され、ブートメニューが選択されています。表示される BIOS 画面や、インストールを続行するために必要なアクションは、OS をインストールするために選択した UEFI/BIOS ブートモードによって異なります。
 - レガシー BIOS ブートモードで OS をインストールした場合は、[ステップ 26](#)に進みます。
 - UEFI ブートモードで OS をインストールした場合は、[ステップ 27](#)に進みます。
26. **レガシー BIOS ブートモードで OS をインストールした場合は、これらの手順を実行してから[ステップ 28](#)に進みます。**

- a. 次に示す BIOS 設定ユーティリティ画面で、下向きの矢印キーを使用して、「Legacy Boot Option Priority」の下にある [USB:VIRTUAL:Remote Iso CDR0M2.05] を選択し、Enter を押します。



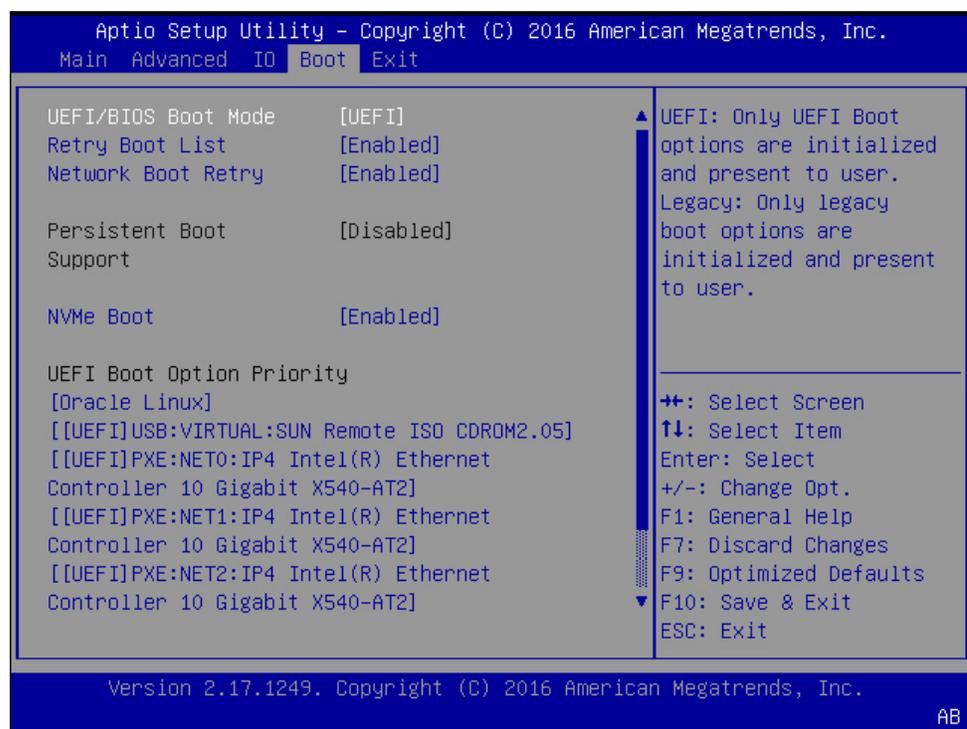
注記 - インストールで表示される BIOS ブート画面は、サーバーに取り付けられているディスクコントローラやその他のハードウェア (PCIe ネットワークカードなど) のタイプによって異なる場合があります。

「Boot Option #1」ダイアログが表示されます。

- b. [SAS:PCIE6:E02S0C-2F0247C9 HITACHI H101860SFSUN60] を選択して、Enter を押します。

[SAS:PCIE6:E02S0C-2F0247C9 H101860SFSUN60] がいちばん上の位置に移動します。

- c. **F10** キーを押して変更を保存し、**BIOS 設定ユーティリティ**を終了して**ステップ 28**に進みます。
27. **UEFI ブートモードで OS をインストールした場合は、次の手順を実行します。**
- a. 次に示す **BIOS 設定ユーティリティ**画面で、作成したブートエントリ名 (この例では **[Oracle Linux]**) が「**UEFI Boot Option Priority**」フィールドの下の最初のオプションとして一覧表示されていることを確認します。



注記 - インストールで表示される BIOS ブート画面は、サーバーに取り付けられているディスクコントローラやその他のハードウェア (PCIe ネットワークカードなど) のタイプによって異なる場合があります。

- b. **F10** キーを押して **BIOS 設定ユーティリティ**を終了します。
28. **Oracle Enterprise Linux 6.7** をインストールしたあとの最初のリポートで、任意のキーを押してメニューに入ります。

GNU GRUB 画面が表示されます。

```
GNU GRUB version 0.97 (611K lower / 1957356K upper memory)

Oracle Linux Server Unbreakable Enterprise Kernel (3.8.13-68.3.4.el6u→
Oracle Linux Server Red Hat Compatible Kernel (2.6.32-573.el6.x86_64)

Use the ↑ and ↓ keys to select which entry is highlighted.
Press enter to boot the selected OS, 'e' to edit the
commands before booting, 'a' to modify the kernel arguments
before booting, or 'c' for a command-line.
```

29. 「Oracle Linux Server Red Hat Compatible Kernel (2.6.32-573.el6.x86_64)」を選択します。
30. Linux にログインし、Linux のインターネット接続がアクティブであることを確認します。
31. /etc/yum.repos.d/local.repo に UEK エントリが表示されることを確認します。

```
[UEK4]
name=UEK4
baseurl=http://public-yum.oracle.com/repo/OracleLinux/OL6/UEKR4/x86_64
enabled=1
gpgcheck=1
```

32. yum update kernel-uek または yum update を実行します

更新画面が表示されます。

```
[root@sgsh-dhccp-95-47 ~]# yum update kernel-uek
Loaded plugins: security, ulninfo
Setting up update Process
UEK4
UEK4/primary
localrepo
Resolving Dependencies
--> Running transaction check
--> Package kernel-uek.x86_64 0:4.1.12-32.el6uek will be installed
--> Processing Dependency: kernel-firmware = 4.1.12-32.el6uek for package: kernel-uek-4.1.12-32.el6uek.x86_64
--> Processing Dependency: linux-firmware >= 20140911-0.1.git365e80c.0.7 for package: kernel-uek-4.1.12-32.el6uek.x86_64
--> Running transaction check
--> Package kernel-firmware.noarch 0:2.6.32-573.el6 will be obsoleted
--> Package kernel-uek-firmware.noarch 0:4.1.12-32.el6uek will be installed
--> Package linux-firmware.noarch 0:20140911-0.1.git365e80c.0.7.el6 will be obsoleting
--> Package ql2100-firmware.noarch 0:1.19.38-3.1.el6 will be obsoleted
--> Package ql2200-firmware.noarch 0:2.02.08-3.1.el6 will be obsoleted
--> Package ql23xx-firmware.noarch 0:3.03.27-3.1.el6 will be obsoleted
--> Package ql2400-firmware.noarch 0:7.04.00-1.0.1.el6 will be obsoleted
--> Package ql2500-firmware.noarch 0:7.05.00-1.0.1.el6 will be obsoleted
--> Package rt61pci-firmware.noarch 0:1.2-7.el6 will be obsoleted
--> Package rt73usb-firmware.noarch 0:1.8-7.el6 will be obsoleted
--> Finished Dependency Resolution

Dependencies Resolved

Package Arch Version Repository Size
-----
Installing:
kernel-uek x86_64 4.1.12-32.el6uek UEK4 50 M
linux-firmware noarch 20140911-0.1.git365e80c.0.7.el6 UEK4 19 M
replacing kernel-firmware.noarch 2.6.32-573.el6
replacing ql2100-firmware.noarch 1.19.38-3.1.el6
replacing ql2200-firmware.noarch 2.02.08-3.1.el6
replacing ql23xx-firmware.noarch 3.03.27-3.1.el6
replacing ql2400-firmware.noarch 7.04.00-1.0.1.el6
replacing ql2500-firmware.noarch 7.05.00-1.0.1.el6
replacing rt61pci-firmware.noarch 1.2-7.el6
replacing rt73usb-firmware.noarch 1.8-7.el6
Installing for dependencies:
kernel-uek-firmware noarch 4.1.12-32.el6uek UEK4 1.8 M

Transaction Summary
-----
Install 3 Package(s)
Total download size: 72 M
Is this ok [y/N]:
```

33. 更新が完了したら、**reboot** コマンドを使用してサーバーをリブートします。
サーバーが新しい Oracle Unbreakable Enterprise Kernel を起動します。

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して Oracle Linux 7.2 OS をインストールする

この手順では、ローカルまたはリモートメディアから Oracle Linux OS 7.2 をインストールする方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースから Oracle Linux のインストールメディアをブートすることを前提にしています。

- Oracle Linux OS 7.2 の DVD セット (内蔵または外付け DVD)
- Oracle Linux OS 7.2 の ISO DVD イメージ (ネットワークリポジトリ)

PXE 環境からインストールメディアをブートしている場合は、[59 ページの「PXE ネットワークブートを使用した Oracle Linux 6.7 および 7.2 OS のインストール」](#)で手順を参照してください。

1. インストールメディアがブートできることを確認します。
 - **配布 DVD の場合**、ローカルまたはリモート DVD ドライブに、Oracle Linux 7.2 OS 配布メディアブートディスク (DVD) を挿入します。

- **ISO イメージの場合は**、Oracle Linux OS 7.2 ISO イメージが使用可能であり、その ISO イメージが KVMs メニューを使用して Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションにマウントされていることを確認します。

インストールメディアを設定する方法については、[24 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。

2. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

たとえば、サーバーをリセットするには、次のいずれかを行います。

- **ローカルサーバーで**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押してサーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから** 「Host Management」-> 「Power Control」をクリックし、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択してから、「Save」をクリックします。
- **Oracle ILOM CLI で** `reset /System` と入力します

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。

注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、F8 キーを押せるようにしておきます。画面に表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. BIOS 画面で、F8 キーを押して、Linux OS のインストールで使用する一時ブートデバイスを指定します。

[Boot Pop Up Menu Selected] が BIOS 画面の最下部に表示され、「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。表示される画面は、「UEFI/BIOS Boot Mode」をレガシー BIOS に構成したか UEFI に構成したかに応じて異なります。

注記 - インストール時に表示される「Please Select Boot Device」メニューは、サーバーに取り付けられているディスクコントローラのタイプや、PCIe ネットワークカードなどのほかのハードウェアによって異なる場合があります。

4. 「Please Select Boot Device」メニューで、使用対象として選択した Linux OS メディアのインストール方法と BIOS モードに応じたメニュー項目を選択し、Enter を押します。

例:

- **レガシー BIOS ブートモードで Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションの配布方法を使用した場合は**、レガシー BIOS 画面で `USB: VIRTUAL:Remote Iso CDR0M2.04` を選択します。

- UEFI ブートモードで Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションの配布方法を使用した場合は、UEFI 画面で [UEFI]USB:VIRTUAL:Remote Iso CDR0M2.05 を選択します。
5. インストールプログラムによって表示される次の画面は、レガシー BIOS ブートモードまたは UEFI ブートモードのどちらを選択したかによって異なります。
 - レガシー BIOS ブートモードを選択した場合は、「Welcome to Oracle Linux Server」ブート画面が表示されます。
 - UEFI ブートモードを選択した場合は、「Booting Oracle Linux Server」ブート画面が表示されます。
 6. このインストールを行うために、次のいずれかを実行します。
 - レガシー BIOS ブートモードでインストールを実行することを選択した場合、デフォルトを受け入れて Enter を押します。
 - UEFI ブートモードでインストールを実行することを選択した場合、Enter を押すか、画面がタイムアウトになるまで待ちます。

「Disc Found」画面が表示されます。この画面から、インストールを実行する前にメディアをテストするかどうかを選択できます。
 7. 今回はじめて、このメディアからインストールを実行する場合は、「OK」を選択してメディアをテストすることを検討してください。それ以外の場合は「skip」を選択して Enter を押します。

Oracle Linux 7 のスプラッシュ画面が表示されます。
 8. Oracle Linux 7.2 のインストール手順に進みます。インストール手順は、Oracle Linux 7.2 の製品ドキュメントライブラリ (http://docs.oracle.com/cd/E52668_01/index.html) に含まれています。

注記 - Oracle Linux 7 には、Oracle Linux 6 と異なる動作や結果を伴う新機能が含まれています。インストールは慎重に進めてください。

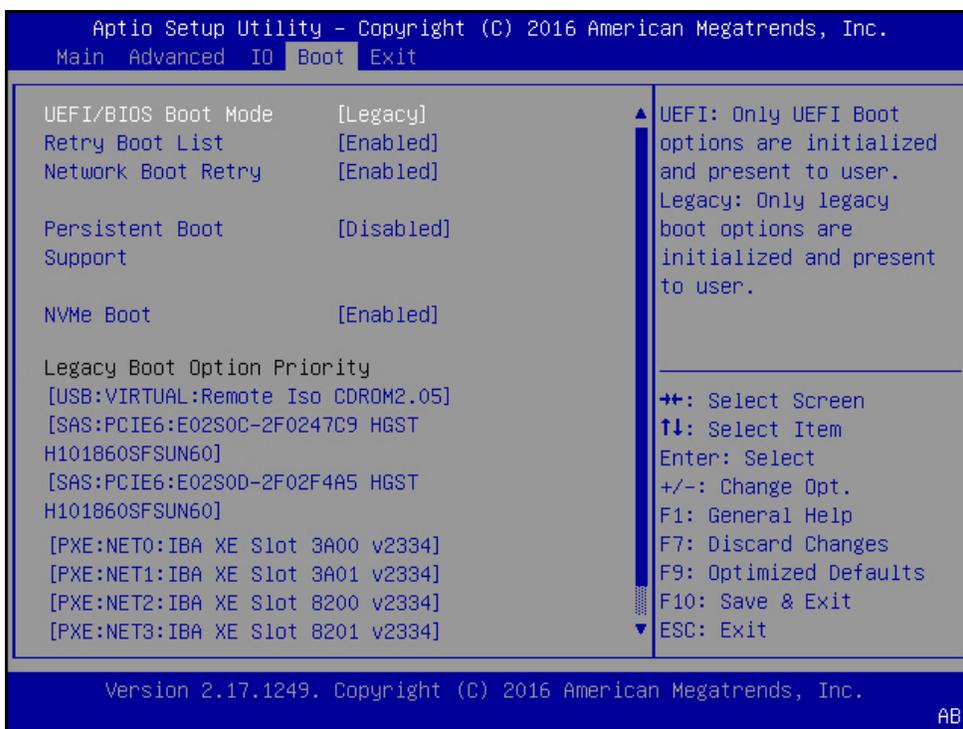
インストールが完了すると、サーバーがリブートして BIOS 画面が表示されます。

9. BIOS 設定ユーティリティにアクセスして、インストールしたオペレーティングシステムからブートするようにサーバーを設定するには、F2 キーを押します。

BIOS 設定ユーティリティ画面が表示され、ブートメニューが選択されています。表示される BIOS 画面や、インストールを続行するために必要なアクションは、OS をインストールするために選択した UEFI/BIOS ブートモードによって異なります。

 - レガシー BIOS ブートモードで OS をインストールした場合は、[ステップ 10](#)に進みます。

- UEFI ブートモードで OS をインストールした場合は、[ステップ 11](#)に進みます。
10. レガシー BIOS ブートモードで OS をインストールした場合は、これらの手順を実行してから[ステップ 12](#)に進みます。
- a. 次に示す BIOS 設定ユーティリティー画面で、下向きの矢印キーを使用して、「Legacy Boot Option Priority」の下にある **[USB:VIRTUAL:Remote Iso CDR0M2.05]** を選択し、Enter を押します。



注記 - インストールで表示される BIOS ブート画面は、サーバーに取り付けられているディスクコントローラやその他のハードウェア (PCIe ネットワークカードなど) のタイプによって異なる場合があります。

「Boot Option #1」ダイアログが表示されます。

- b. **[SAS:PCIE6:E02SOC-2F0247C9 HITACHI H101860SFSUN600A606]** を選択して、Enter を押します。

[SAS:PCIE6:E02SOC-2F0247C9 HITACHI H101860SFSUN600A606] がいちばん上の位置に移動します。

- c. **F10** キーを押して変更を保存し、**BIOS 設定ユーティリティ**を終了して**ステップ 12**に進みます。

- 11. **UEFI ブートモードで OS をインストールした場合は、次の手順を実行します。**

- a. **BIOS 設定ユーティリティ**画面で、「**UEFI Boot Option Priority**」フィールドに正しい最初のオプションが表示されていることを確認します。

注記 - インストールで表示される BIOS ブート画面は、サーバーに取り付けられているディスクコントローラやその他のハードウェア (PCIe ネットワークカードなど) のタイプによって異なる場合があります。

- b. **F10** キーを押して **BIOS 設定ユーティリティ**を終了します。

- 12. **リポートが続行する間、お待ちください。**

次のカーネル画面が表示されます。

```
Press any key to enter the menu
Booting Oracle Linux Server Unbreakable Enterprise Kernel (3.8.13-98.7.1.el6uek.x86_64) in
  2 seconds...
```

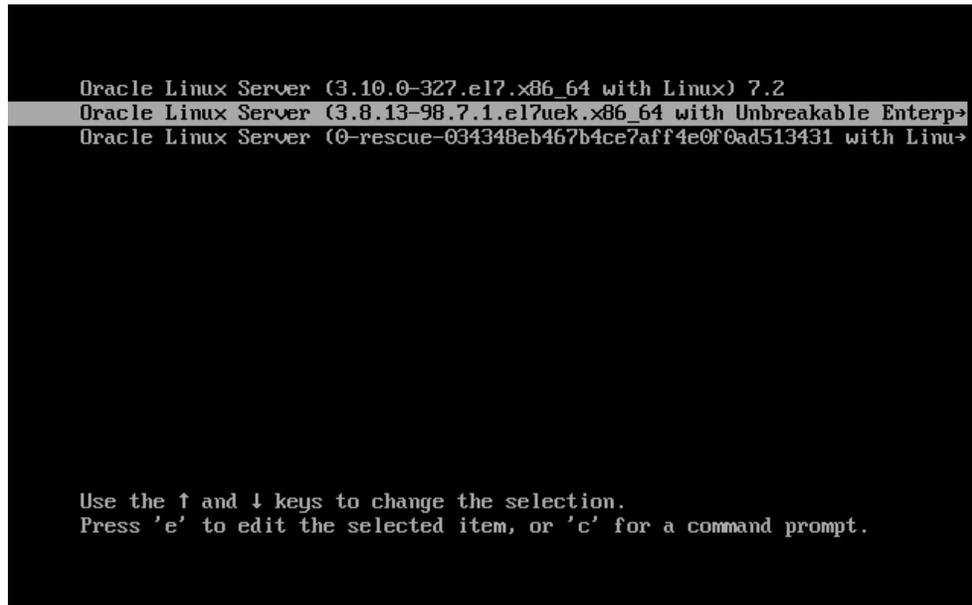
Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 4 for Linux はデフォルトのカーネルです。

- 13. デフォルトのカーネルを変更しない場合は、**ステップ 15**に進みます。それ以外の場合は、**ステップ 14**に進みます。

- 14. (オプション) Oracle Linux 7.2 をインストールしているときに、Red Hat 互換カーネルに切り替える場合は、次を実行します。

- a. いずれかの文字キーを押します。

GNU GRUB 画面が表示されます。



- b. Red Hat 互換カーネルの場合は、2 番目のメニューオプションを選択したあと、Enter を押します。
15. Oracle Linux のインストールを完了し、目的の Linux カーネルでサーバーをリブートしたあと、63 ページの「[Oracle Linux 6.7 または 7.2 OS のインストール後のタスク](#)」に進みます。

▼ PXE ネットワークブートを使用した Oracle Linux 6.7 および 7.2 OS のインストール

この手順では、PXE ネットワーク環境から Oracle Linux 6.7 または 7.2 OS をインストールする方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースからインストールメディアをブートすることを前提にしています。

- Oracle Linux 6.7 または 7.2 の ISO DVD イメージ
- Oracle Linux 6.7 または 7.2 KickStart イメージ (ネットワークリポジトリ)

KickStart は自動インストールツールです。これにより、システム管理者は、通常であれば Oracle Linux の標準的なインストール中に指定されるインストールおよび構成パラメータの一部またはすべてに対する設定を含む単一のイメージを作成できます。通常、KickStart イメージは 1 つのネットワークサーバー上に配置され、インストール時に複数のシステムによって読み取られます。

Oracle Linux PXE インストールを実行する前に、次の要件が満たされていることを確認してください。

- KickStart イメージを使用してインストールを行う場合、次の操作が必要です。
 - KickStart ファイルを作成します。
 - KickStart ファイルを含むブートメディアを作成するか、またはネットワーク上で KickStart ファイルを使用できるようにします。
- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアをブートするには、次の操作が必要です：
 - インストールツリーをエクスポートするようにネットワーク (NFS、FTP、HTTP) サーバーを構成します。
 - PXE のブートに必要なファイルを TFTP サーバー上に構成します。
 - PXE 構成からブートするようにサーバーの MAC ネットワークポートアドレスを構成します。
 - DHCP (動的ホスト構成プロトコル) を構成します。

Oracle Linux 6 での KickStart および PXE ネットワークインストールの詳細については、次の場所にある『Oracle Linux インストールガイド』を参照してください。http://docs.oracle.com/cd/E37670_01/index.html

Oracle Linux 7 での KickStart および PXE ネットワークインストールの詳細については、次の場所にある『Oracle Linux 7 インストールガイド』を参照してください。http://docs.oracle.com/cd/E52668_01/E54695/html/index.html

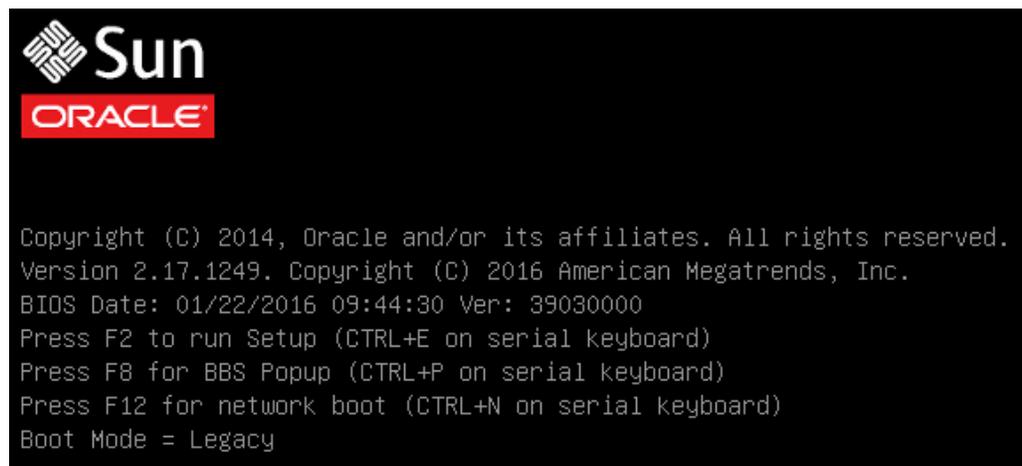
1. **PXE ネットワーク環境が正しく設定され、Oracle Linux のインストールメディアを PXE ブートで使用できることを確認します。**
2. **サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。**

たとえば、サーバーをリセットするには、次のいずれかを行います。

 - **ローカルサーバーで**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押し、サーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
 - **Oracle ILOM Web インタフェースから** 「Host Management」-> 「Power Control」をクリックし、「Select Action」リストボックスから 「Reset」を選択してから、「Save」をクリックします。
 - **Oracle ILOM CLI で** `reset /System` と入力します

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。

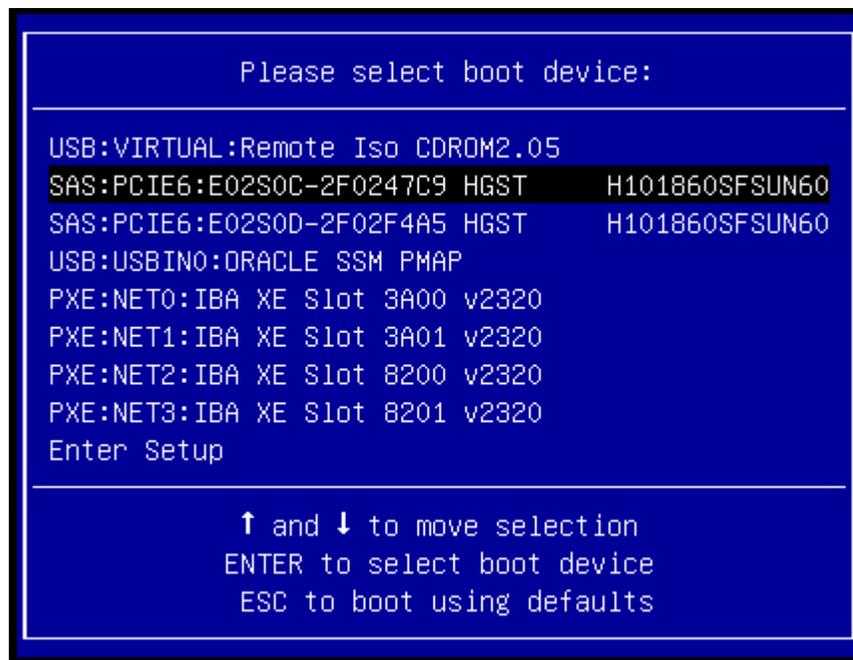
注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、F8 キーを押せるようにしておきます。画面に表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。



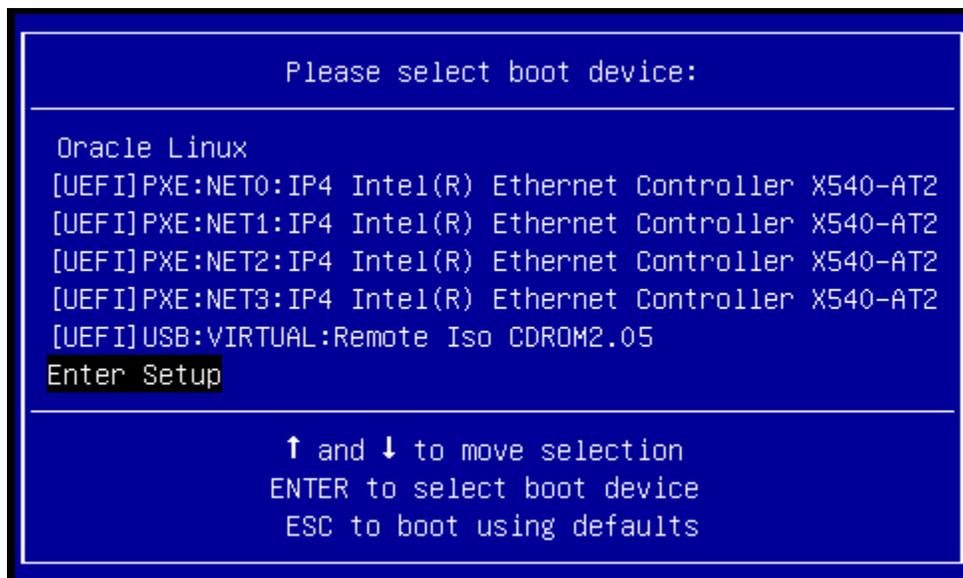
3. BIOS 画面で、F8 キーを押して、Linux OS のインストールで使用する一時ブートデバイスを指定します。

[Boot Pop Up Menu Selected] が BIOS 画面の最下部に表示され、「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。表示される画面は、「UEFI/BIOS Boot Mode」をレガシー BIOS に構成したか UEFI に構成したかに応じて異なります。

- レガシー BIOS ブートモードの場合、次の画面が表示されます。



- UEFI ブートモードの場合、次の画面が表示されます。



注記 - インストール時に表示される「Please Select Boot Device」メニューは、サーバーに取り付けられているディスクコントローラのタイプや、PCIe ネットワークカードなどのほかのハードウェアによって異なる場合があります。

4. 「Please Select Boot Device」メニューで、使用している PXE ネットワークインストールサーバーと通信できるように構成されている PXE インストールブートデバイス (物理ネットワークポート) を選択して、Enter を押します。
ネットワークブートローダーがロードされ、実行を開始します。
5. ここから先は、インストール手順はサイトの KickStart ファイルでの指定に従い、サイト固有になります。

Oracle Linux 6.7 または 7.2 OS のインストール後のタスク

Oracle Linux 6.7 および 7.2 OS をインストールしたあと、システムを Oracle に登録してサブスクリプションを有効にし、ソフトウェアの自動更新を受信するようにしてください。これにより、サーバーで最新バージョンのオペレーティングシステムが実行されることが保証されます。手順については、次にアクセスしてください。

<http://www.oracle.com/technetwork/articles/servers-storage-admin/yum-repo-setup-1659167.html>

サーバーを最新のアップデートで更新したあとは、オペレーティングシステムを使用する前に、必ずサーバーをリブートしてください。サーバーを最新のアップデートに更新すると、Oracle Linux オペレーティングシステムへの最新の機能強化がサーバーに確実に装備されるだけでなく、オプションの NVMe ストレージドライブ (取り付けられている場合) の正しい動作に必要な最新バージョンの Unbreakable Enterprise Kernel (UEK) for Linux もサーバーで確実に実行されるようになります。

Red Hat Enterprise Linux OS の単一システムへの手動インストール

このセクションでは、Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.7 および 7.2 for x86 (64 ビット) と Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux をインストールする手順について説明します。

ここでは、次のトピックを取り上げます。

- [64 ページの「RHEL 6.7 および 7.2 OS のインストールのタスクマップ」](#)
- [65 ページの「開始する前に」](#)
- [66 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して RHEL 6.7 および 7.2 OS をインストールする」](#)
- [70 ページの「PXE ネットワークブートを使用して RHEL 6.7 または 7.2 OS をインストールする」](#)
- [73 ページの「RHEL 6.7 または 7.2 OS のインストール後のタスク」](#)

RHEL 6.7 および 7.2 OS のインストールのタスクマップ

次の表は、Red Hat Enterprise Linux (RHEL) オペレーティングシステムをインストールするための概略手順の一覧と説明です。

手順	説明	リンク
1.	サーバーハードウェアを設置します。	<ul style="list-style-type: none">■ 『Oracle Server X6-2 設置ガイド』の「サーバーのラックへの設置」■ 『Oracle Server X6-2 設置ガイド』の「サーバーのケーブル接続と電源の投入」
2.	Oracle ILOM サービスプロセッサを構成します。	<ul style="list-style-type: none">■ 『Oracle Server X6-2 設置ガイド』の「Oracle ILOM への接続」

手順	説明	リンク
3.	サーバーでサポートされている Linux のバージョンを確認します。	10 ページの「サポートされている Linux オペレーティングシステム」
4.	RHEL インストールメディアを入手します。	https://access.redhat.com/downloads にアクセスしてください。
5.	プロダクトノートを確認します。	『Oracle Server X6-2 プロダクトノート』 (http://www.oracle.com/goto/X6-2/docs)
6.	インストールの実行に使用するコンソール、RHEL メディア、およびインストール先を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 15 ページの「コンソール表示オプションの選択」 ■ 24 ページの「ブートメディアオプションの選択」 ■ 28 ページの「インストール先の選択」
7.	OS の新規インストール用に BIOS 設定を指定します。	18 ページの「ブート環境の準備」
8.	RHEL OS をインストールします。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 66 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して RHEL 6.7 および 7.2 OS をインストールする」 ■ 70 ページの「PXE ネットワークブートを使用して RHEL 6.7 または 7.2 OS をインストールする」
9.	インストール後のタスクを実行します。	73 ページの「RHEL 6.7 または 7.2 OS のインストール後のタスク」

開始する前に

次の要件が満たされていることを確認します。

- ブートドライブ (OS のインストール先ストレージドライブ) を RAID 用に構成する場合は、Linux OS をインストールする前にそれを実行する必要があります。『Oracle Server X6-2 設置ガイド』の「オペレーティングシステムインストールのためのストレージドライブの構成」を参照してください。
- ホストコンソールディスプレイにアクセスできること。このオプションおよび設定手順の詳細は、15 ページの「コンソール表示オプションの選択」を参照してください。
- ブート環境を準備していること。詳細は、18 ページの「ブート環境の準備」を参照してください。
- UEFI ファームウェア設定が正しく設定されていることを確認していること。手順については、19 ページの「UEFI の最適なデフォルト値を確認する」を参照してください。
- ファームウェアを目的のブートモード (レガシー BIOS または UEFI) に設定していること。手順については、21 ページの「ブートモードを設定する」を参照してください。
- ブートメディアを準備していること。詳細は、24 ページの「ブートメディアオプションの選択」を参照してください。

- インストール先のオプションを選択しており、それが正しく設置されていることを確認していること。詳細は、28 ページの「インストール先の選択」を参照してください。

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して RHEL 6.7 および 7.2 OS をインストールする

この手順では、ローカルまたはリモートメディアから Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.7 または 7.2 オペレーティングシステムのインストールをブートする方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースから RHEL のインストールメディアをブートすることを前提にしています。

- RHEL 6.7 または 7.2 DVD セット (内蔵または外付けの DVD)
- RHEL 6.7 または 7.2 の ISO DVD イメージ

PXE 環境からインストールメディアをブートしている場合は、70 ページの「PXE ネットワークブートを使用して RHEL 6.7 または 7.2 OS をインストールする」で手順を参照してください。

RHEL OS のインストールの詳細は、<https://access.redhat.com/site/documentation/en-US> にある RHEL ドキュメントコレクションを参照してください。

1. インストールメディアをブートできることを確認します。

- **配布 DVD の場合**は、Red Hat 6.7 または 7.2 配布メディアブート DVD をローカルまたはリモートの USB DVD ドライブに挿入します。
- **ISO イメージの場合**、Red Hat 6.7 または 7.2 ISO イメージが利用できること、および ISO イメージが KVMs メニューを使用して Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションにマウントされていることを確認します。

インストールメディアを設定する方法については、24 ページの「ブートメディアオプションの選択」を参照してください。

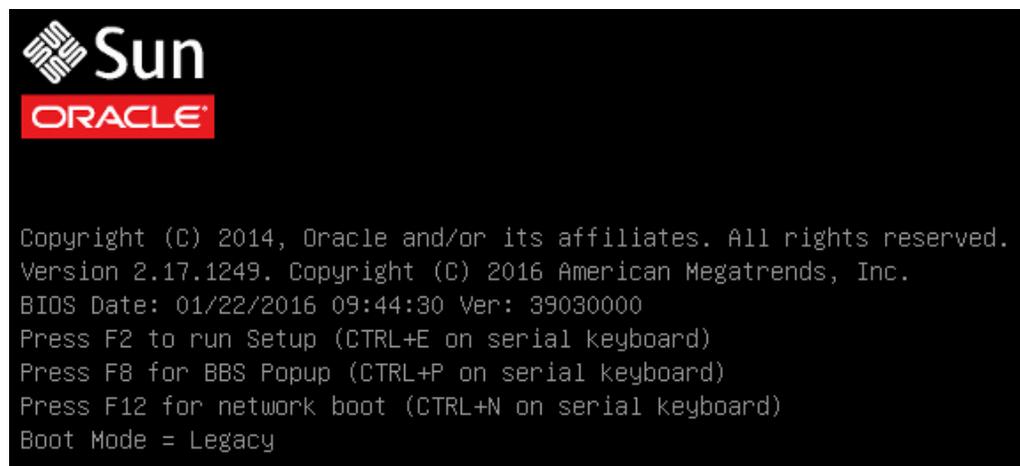
2. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

たとえば、サーバーをリセットするには、次のいずれかを行います。

- **ローカルサーバーで**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押し、サーバーの電源を切った後、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから**「Host Management」->「Power Control」をクリックし、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択してから、「Save」をクリックします。

- Oracle ILOM CLI で `reset /System` と入力します

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。

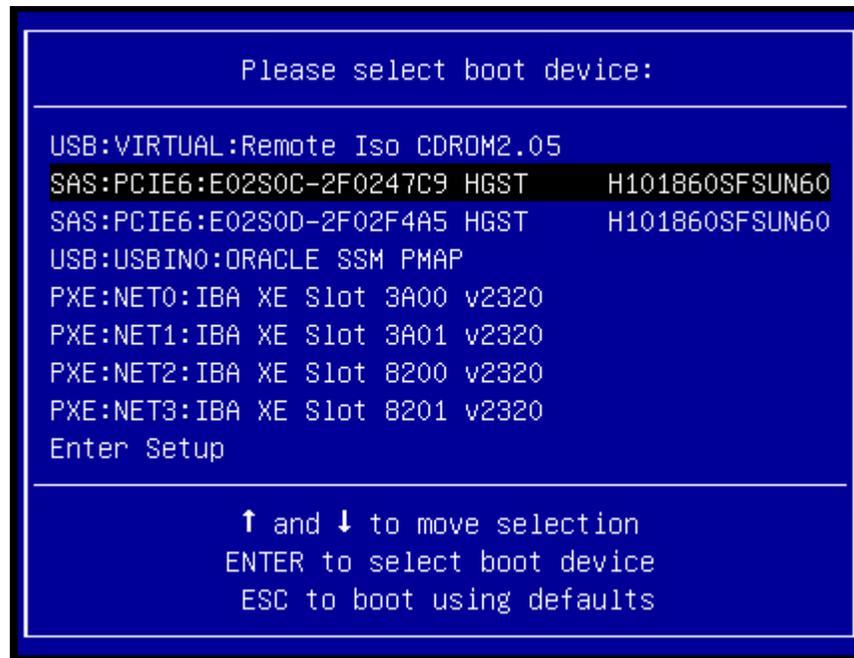


注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、F8 キーを押せるようにしておきます。画面に表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

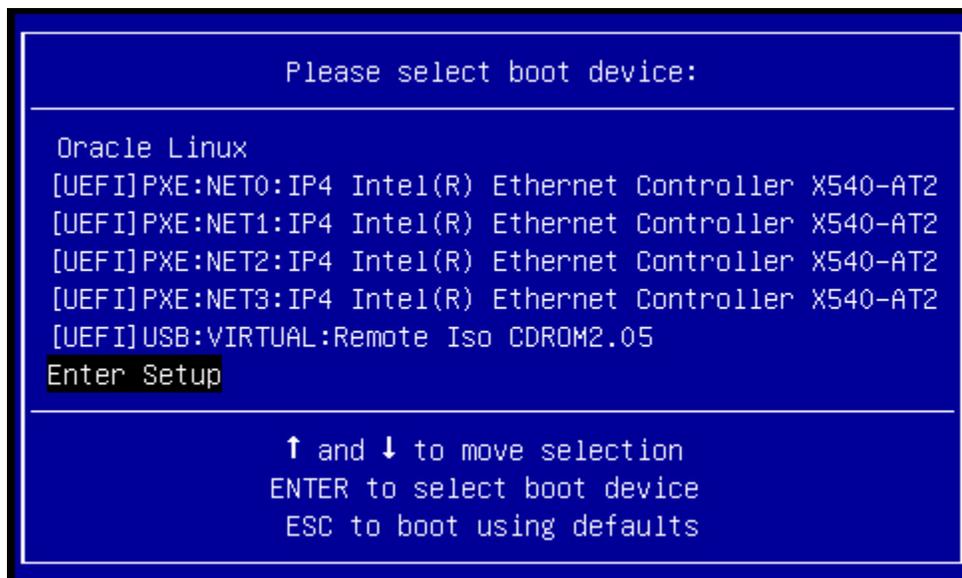
3. BIOS 画面で、F8 キーを押して、RHEL のインストールで使用する一時ブートデバイスを指定します。

[Boot Pop Up Menu Selected] が BIOS 画面の最下部に表示され、「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。表示される画面は、「UEFI/BIOS Boot Mode」をレガシー BIOS に構成したか UEFI に構成したかに応じて異なります。

- レガシー BIOS ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。



- UEFI ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。



注記 - インストール時に表示される「Please Select Boot Device」メニューは、サーバーに取り付けられているディスクコントローラのタイプや、PCIe ネットワークカードなどのほかのハードウェアによって異なる場合があります。

4. 「Please Select Boot Device」メニューで、最初のブートデバイスを内蔵、外付け、または仮想 DVD デバイスから選択し、Enter キーを押します。
数秒後、RHEL インストールのsplash画面が表示されます。splash画面の下半分に、説明、ファンクションキー、およびブートプロンプトが表示されます。
5. Red Hat Enterprise Linux のsplash画面で、「Next」をクリックして標準的な対話式インストールを続けます。
または、テキストモードで、次のコマンドを入力します。

```
boot: linux text
```
6. 画面上の指示と Red Hat のドキュメントに従って、Red Hat インストールの基本設定を続行します。
詳細なインストール手順については、次の場所にある Red Hat Enterprise Linux のインストールガイドを参照してください。

<https://access.redhat.com/site/documentation/en-US>

7. Red Hat インストールの基本設定が完了したら、73 ページの「RHEL 6.7 または 7.2 OS のインストール後のタスク」に示されているインストール後のタスクを実行します。

▼ PXE ネットワークブートを使用して RHEL 6.7 または 7.2 OS をインストールする

この手順では、PXE ネットワーク環境から Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.7 または 7.2 をブートする方法について説明します。6.7 または 7.2 KickStart イメージ (ネットワークリポジトリ) からインストールメディアをブートすることを前提にしています。

KickStart は、自動インストールツールです。これにより、システム管理者は、通常であれば Red Hat Linux の標準的なインストール中に指定されるインストールおよび構成パラメータの一部またはすべてに対する設定を含む単一のイメージを作成できます。通常、KickStart イメージは 1 つのネットワークサーバー上に配置され、インストール時に複数のシステムによって読み取られます。

始める前に RHEL PXE インストールを実行する前に、次の要件が満たされていることを確認してください。

- KickStart イメージを使用してインストールを行う場合、次の操作が必要です。
 - KickStart ファイルを作成します。
 - KickStart ファイルを含むブートメディアを作成するか、またはネットワーク上で KickStart ファイルを使用できるようにします。
- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアをブートするには、次の操作が必要です：
 - インストールツリーをエクスポートするようにネットワーク (NFS、FTP、HTTP) サーバーを構成します。
 - PXE のブートに必要なファイルを TFTP サーバー上に構成します。
 - PXE 構成からブートするようにサーバーの MAC ネットワークポートアドレスを構成します。
 - DHCP (動的ホスト構成プロトコル) を構成します。

次の Web サイトにある Red Hat Enterprise Linux 管理ガイドの PXE ネットワークインストール手順に従ってください。

<https://access.redhat.com/site/documentation/en-US>

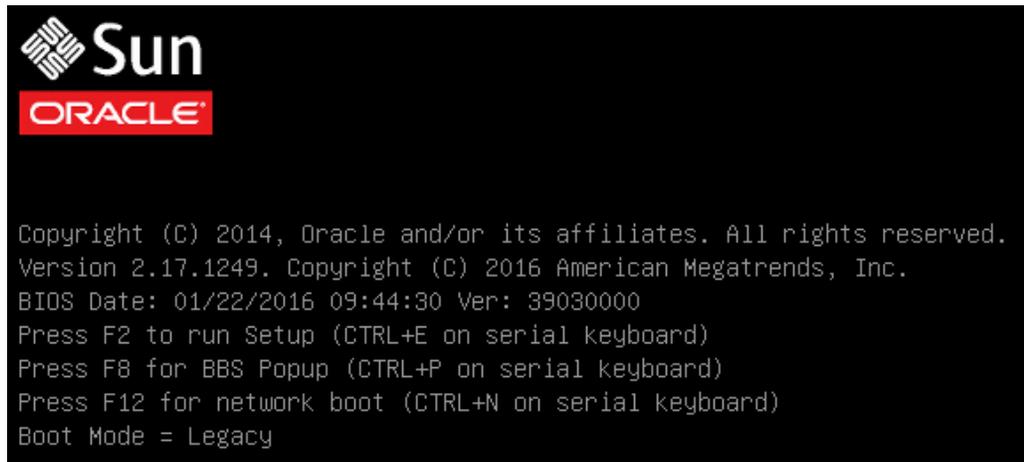
1. PXE ネットワーク環境が正しく設定され、RHEL のインストールメディアを PXE ブートで使用できることを確認します。

2. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

たとえば、サーバーをリセットするには次のいずれかを実行します。

- ローカルサーバーで、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押し、サーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- Oracle ILOM Web インタフェースから「Host Management」->「Power Control」をクリックし、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択してから、「Save」をクリックします。
- Oracle ILOM CLI で `reset /System` と入力します

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。

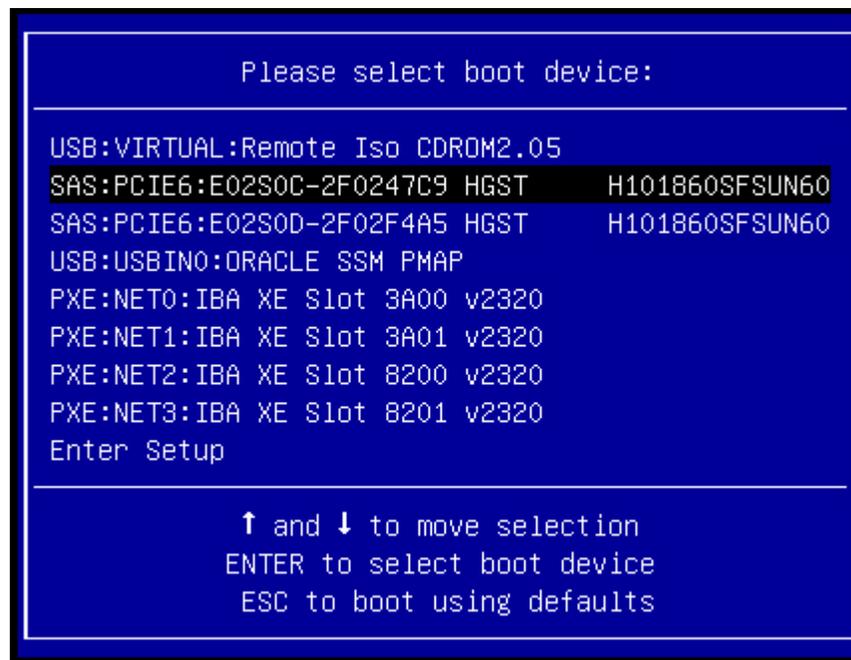


注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、F8 キーを押せるようにしておきます。画面に表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

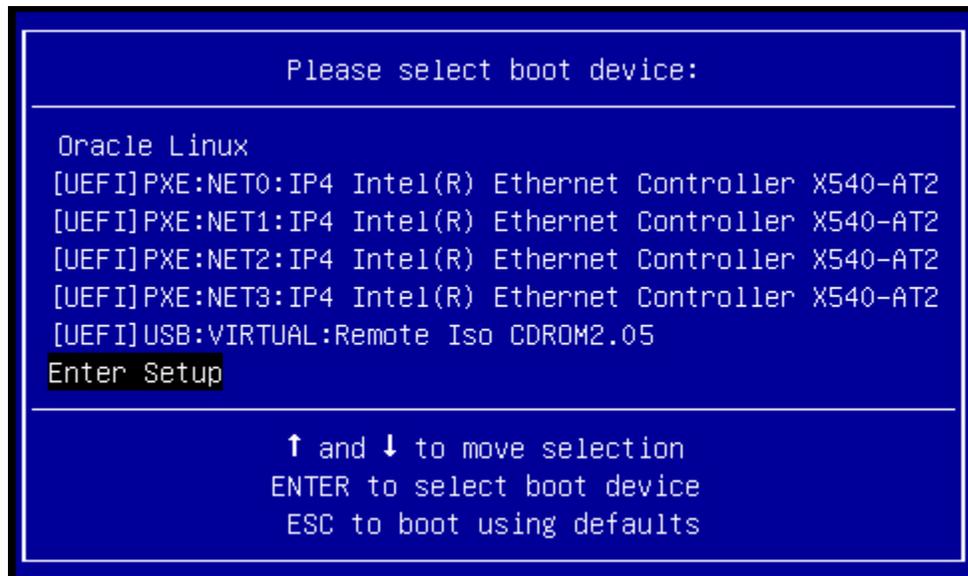
3. BIOS 画面で、F8 キーを押して、RHEL のインストールで使用する一時ブートデバイスを指定します。

[Boot Pop Up Menu Selected] が BIOS 画面の最下部に表示され、「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。表示される画面は、「UEFI/BIOS Boot Mode」をレガシー BIOS に構成したか UEFI に構成したかに応じて異なります。

- レガシー BIOS ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。



- UEFI ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。



注記 - インストール時に表示される「Please Select Boot Device」メニューは、サーバーに取り付けられているディスクコントローラのタイプや、PCIe ネットワークカードなどのほかのハードウェアによって異なる場合があります。

4. 「Please Select Boot Device」メニューで、使用している PXE ネットワークインストールサーバーと通信できるように構成されている PXE インストールブートデバイス (物理ネットワークポート) を選択して、Enter を押します。
ネットワークブートローダーがロードされ、ブートプロンプトが表示されます。数秒後、インストールカーネルのロードが開始されます。
5. ここから先は、インストール手順はサイトの KickStart ファイルでの指定に従い、サイト固有になります。

RHEL 6.7 または 7.2 OS のインストール後のタスク

Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.7 または 7.2 OS のインストールが完了したら、次のインストール後のタスクを確認し、システムに適用可能なタスクを実行するようにしてください。

- [74 ページの「RHEL を登録し自動更新を有効にする」](#)

- 74 ページの「OS 更新をダウンロードしてインストールする」
- 74 ページの「(オプション) RHEL に Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux をインストールする」

RHEL を登録し自動更新を有効にする

Red Hat Enterprise Linux (RHEL) をインストールしたあと、RHEL サブスクリプションを有効にしてソフトウェアの自動更新を受信するようにしてください。詳細は、次の場所にある Red Hat のサポートを参照してください。

<http://www.redhat.com/en/services/support>

OS 更新をダウンロードしてインストールする

必要に応じて、RHEL OS の最新のエラッタおよびバグ修正をダウンロードしてインストールしてください。詳細は、次の場所にある Red Hat のドキュメントを参照してください。

https://access.redhat.com/search/#/documentation?q=&documentation_product=&language=en

(オプション) RHEL に Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux をインストールする

Red Hat Enterprise Linux 6.7 および 7.2 OS をインストールしたあと、Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 3 for Linux をインストールして使用することもできます。Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 4 for Linux のインストール手順については、次を参照してください。

<https://oss.oracle.com/ol6/docs/RELEASE-NOTES-UEK3-en.html>

ネットワークインタフェースの構成

このセクションでは、次の情報について説明します。

- [75 ページの「NIC コネクタ」](#)

NIC コネクタ

サーバーのネットワークインタフェースカード (NIC) コネクタには、次のように物理的にラベルが付けられています。

表 1 Intel NIC コネクタのラベル

Intel NIC コネクタのラベル	インタフェースタイプ (Oracle Linux 6.7 および Red Hat Enterprise Linux 6.7)	インタフェースタイプ (Oracle Linux 7.2 および Red Hat Enterprise Linux 7.2)
net0	第 1 インタフェース (eth0)	第 1 インタフェース (eno0)
net1	第 2 インタフェース (eth1)	第 2 インタフェース (eno1)
net2	第 3 インタフェース (eth2)	第 3 インタフェース (eno2)
net3	第 4 インタフェース (eth3)	第 4 インタフェース (eno3)

注記 - 単一プロセッサシステムでは、NET 2 および NET 3 は機能しません。

索引

あ

- 一時ブートデバイス
 - Oracle Linux OS, 33, 55, 61
 - RHEL OS, 67, 71
- インストール
 - メディアの使用
 - Linux OS, 12
 - インストールオプション
 - Linux OS, 11
 - インストール後のタスク
 - Oracle Linux OS, 63
 - Oracle Unbreakable Enterprise Kernel のインストール
 - Oracle Linux OS, 63
 - RHEL OS, 74
 - RHEL OS, 73
 - オペレーティングシステムの更新
 - Oracle Linux OS, 63
 - RHEL OS, 73
 - 更新をダウンロードしてインストールする
 - RHEL OS, 74
 - 製品の登録
 - Oracle Linux OS, 63
 - RHEL OS, 74
 - インストール先オプション
 - Linux OS, 29
 - 選択
 - Linux OS, 28
 - ファイバチャネル Storage Area Network (SAN) デバイス
 - Linux OS, 30
 - ローカルストレージドライブ
 - Linux OS, 29
 - インストールのタスクマップ

- Oracle Linux OS 6.7 および 7.2, 9
- RHEL OS, 64
- インストール方法
 - ブートメディアオプション, 24
- オペレーティングシステムのインストール
 - 概要, 9
 - サポートされているオペレーティングシステム, 10
- オペレーティングシステムのインストールの概要, 9
- オペレーティングシステムの更新
 - Oracle Linux OS, 63
 - RHEL OS, 73

か

- 構成
 - RAID
 - Linux OS, 30
 - ネットワークインタフェース
 - Linux OS, 75
- コンソール表示
 - 接続, 16
 - リモート, 16
 - ローカル, 16

さ

- サーバー
 - 電源のリセット, 33
- サポートされているオペレーティングシステム, 10
 - Linux OS, 10

た

- タスクマップ
 - Oracle Linux OS, 9
 - RHEL OS, 64
- ドキュメント
 - Oracle X6 シリーズサーバー管理ガイド用, 18

な

- ネットワークインタフェース
 - ラベル付け, 75

は

- ハードウェアの互換性リスト, 11
- ブートディスクイメージ
 - Oracle Linux OS 6.7, 32
 - Oracle Linux OS 7.2, 54
 - RHEL OS, 66
- ブートメディア, 24
- ブートメディアのインストール, 24

ま

- メディアを使用したインストール
 - Oracle Linux OS, 32
 - RHEL OS, 64

ら

- リモートコンソール
 - 設定, 17
- リモートブートメディア
 - 要件, 24
- ローカルコンソール
 - 設定, 16
- ローカルブートメディア
 - 要件, 24
- ローカルまたはリモートメディアを使用したインストール
 - Oracle Linux OS 6.7, 32
 - Oracle Linux OS 7.2, 54

B

- BIOS
 - 設定を編集し表示する手順, 19

I

- ISO イメージ
 - Oracle Linux OS, 33, 55
 - RHEL OS, 66

K

- KickStart
 - Oracle Linux OS, 59
 - RHEL OS, 70
- KickStart を使用したインストール
 - RHEL OS, 70

O

- Oracle Linux 6.7 および 7.2 OS, 59
- Oracle Linux OS 7.2
 - サーバーの電源リセット, 55
 - ローカルまたはリモートメディアによるインストール, 54
- Oracle Linux OS 7
 - ISO イメージ, 55
- Oracle Linux OS
 - ISO イメージ, 33
 - サーバーの電源リセット, 33, 60
- Oracle Linux OS のインストール
 - タスクマップ, 9

P

- PXE ネットワークブート
 - Oracle Linux OS 6.7 および 7.2, 59
 - RHEL OS, 70

R

- RAID

構成, 30

Red Hat Enterprise Linux (RHEL) OS

ISO イメージ, 66

サーバーの電源投入, 66

タスクマップ, 64

ブートディスクイメージ, 66

U

UEFI

最適なデフォルト設定の確認, 19

ブートモードの設定, 18, 21

